



同窓会会報にむけて

福島東高等学校同窓会会長

金子 與志人



A・I・U・E・O・K・N・Y・R・W、このアルファベットは何かお気づきになりますか？五十音からM・T・S・Hを抜いた頭文字です。Mは明治・Tは大正・Sは昭和・Hは平成です。

今年、いよいよ新しい元号を迎える年になります。私なりに乏しい知識とない知恵を絞りながら元号は何になるのかと心待ちにしている一人です。そこで冒頭のアルファベットになるの

ですが、文献に今までとかわらないイニシャルと書いてあった記憶があります。私自身は結局何も思い浮かばなかったのですが、自分が生まれた昭和から社会人デビューした平成元年に移行了した時を思い出しました。その時は期待と不安そして慣れ親しんだ昭和との別れに一抹の寂しさを持った記憶があります。

元号が何になるにせよ新しい時代の幕開けです。一日違いで何かが変わるわけではありませんが、このタイミングを大切に

（このアルファベットに関して）は、もしかしたら私の勘違いかもしれませんのでその時はご勘弁頂き、何かの機会にお会いした時にご指導・ご教授頂ければ幸いです。執筆が一月なので会報がお手元に届いた時に新元号が発表されていたらご勘弁下さい。

そしてこの新元号をスタートを通過点とし福島県立福島東高等学校は四十周年へまた一歩近づきます。四十周年催しは学校と相談しながら今後具体的に

と助かりますので宜しくお願ひします。

お願ひついでにもう一つ：それは周年事業だけでなく二年に一度の同窓会総会へのご出席を宜しくお願ひします。多数の恩師もご出席頂いておりますし親子でのご参加も頂いております。男女共学になってからの同窓生や卒業したばかりの同窓生の参加も増えてます。昔話に花を咲かせるには最高の機会です。

最近、職場同窓会を開催しているという事があることがありますが、もちろん職場で東高の絆を強くたくして頂いていることに敬意を表し感謝申し上げます。

そこでお願ひとなる訳ですが、それは職場同窓会の時に同窓会総会参加を一言お伝えいただければありがたいです。

もし、そう言う話は同窓会会長が直接話しをしるとご指示頂けるなら私自身お邪魔するのはやぶさかではありません。どうぞお声がけ下さい。

福島市内で仕事をしていると同窓生とお会いする事が多くなりました。ちょっとした雑談から出身校が同じだと知ると一気



に距離が近くなる様な気がしています。在校時代にはそんなこと考えもしませんでしたし、卒業してからも気にしていませんでした。年を取ったせいかもしれませんが母校を懐かしみ在校生支援を考える年代になったとしみじみ感じます。

同窓生の皆様も日々の中で東高つながりがあるかと思ひます。同窓会はそんなつながりのお手伝いやきっかけになる組織です。遠慮なく要望やご意見を頂けるようお願いして終わりにいたします。

お願ひ事ばかりで恐縮ですが、多くの機会に多くの同窓生とお会いできることを願ひいたします。皆様のご健勝をお祈りし挨拶いたします。

「福島県立福島東高等学校」

福島東高等学校長 吉田 強 栄



昨年の四月一日に本校に着任いたしました。着任以来、同窓会の皆様をはじめ多くの方々の御支援と御協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

着任早々の四月に本校野球部と福島高校野球部の伝統の桜梅戦が開催されました。残念ながら、八対一で敗北という結果に終わりましたが、同じく四月に開催された春季東北地区高等学校野球福島県大会東北支部大会の敗者復活戦において再び、福島高校と対戦し、三対二と雪辱を果たすことができました。勝敗は別にして、白球を追う生徒たちのその姿に感動をいたしました。また、本年度は、山岳部、美術部、放送委員会、サッカー部（個人）が全国大会に、弓道部、合唱部、陸上競技部、水泳部が東北大会に出場を果たしました。九月には、三年に一度の公開文化祭『東桜祭』が開催されま

した。メインテーマは「煌桜舞進」（こうおうまいしん）、これは、東高生一人一人が煌「かがや」き、夢、願い、進路などの目標に向かって突き進むようにと願いを込めたものです。

一日目の仮装行列は、残念ながら天候により中止を余儀なくされましたが、体育館での全クラスによるパフォーマンスが全ての生徒の前で披露されました。二日目には二十一クラスによるクラス企画や写真部、書道部、美術部、英語部、山岳部、図書委員会による展示発表、合唱部、演劇部、ダンス部、吹奏楽部、応援委員会によるステージ発表などが行われました。さらには、PTAの方々による東高オリジナルTシャツと手ぬぐいの販売など、保護者、生徒、教職員が一丸となつて、他の学校には決してマネのできない、東高の文化祭でした。

また、学習面においても、本校は八割以上の生徒が国公立大学を目指し入学してまいります。その生徒一人一人の進路希望を実現すべく、自習のない完全授業、チャイムttoチャイム

徹底、課外の充実、そして将来を見据えた様々な講話、講演会の開催など、着任以来、教職員と東高生の活躍する姿に『文武両道』の実践の素晴らしさを実感しております。

そして、東高も来年度は創立四十周年を迎えます。本校は、昭和五十一年に、高校教育のあるべき姿を追求する進学モデル校・研究開発校として創立された普通科高校です。「創造・協調・躍進」を校訓とし、生徒の個性・能力に応じた教育の徹底を基本として「文武両道」の実践により、難関・中堅国公立大学を目指すことができる確かな学力を培ってきました。そして、様々な分野で活躍する有為な人材を社会に輩出してまいりました。

さて、現在の高等学校教育は平成三十二年から導入される大学入学共通テストや人口減少などの社会の急速な変化への対応、加えて本県では、東日本大震災・原子力災害からの復興・再生など、かつてない大きな課題を抱えております。

よって、本校を含め本県の高等学校教育もこれまでにない質的な変換が迫られています。

特に、本県は今後十年間で中学校卒業見込者は約五千三百人

に減少することが見込まれています。

そこで、本県教育委員会はこれらの社会の変化に応じた今後の県立高等学校の在り方について県立高等学校基本計画を策定しました。

本計画は、本県高等学校教育の質の向上のために、各学校の良さや地域の中で果たしてきた役割を十分に踏まえつつ、各高等学校の新たな在り方を検討し、特色化と再編整備を図る中で、より良い教育環境を提供することによって、生徒一人一人の資質や能力を伸長させることのできる魅力ある高等学校づくりを推進するものです。

特に生徒減少に伴う対応として、生徒の社会性を養うことのできる一定の集団規模を確保しつつ、生徒一人一人に目の行き届いたきめ細かな指導を充実させるという観点から、望ましい学校規模を一学年四〜六学級とすること。多様化する生徒の学習ニーズに応え、科目の選択や部活動の数を一定程度確保するとともに、教育活動の中で生徒同士がお互いに切磋琢磨できる環境とするため、一学年三学級以下の高等学校については、地域における学校の役割を配慮するとともに、教育内容等を工夫

して学校の魅力化を図りながら、都市部を含めて統合を推進することなどが提示されました。本校においても今後の十年、その先を見据えた学校改革を推進していかねばなりません。

まず手始めに、次年度より四十五分七校時から五十分七校時に移行します。

加えて今後とも、本校に対する生徒、保護者や地域社会から期待や要望、本校創立の精神を踏まえつつ社会の変化を適切に見極めながら魅力ある学校づくりを推進していかねばなりません。本校は創立以来の「文武両道」の精神を堅持し、これからの変化の激しい時代を生きる力を身につけさせることが、本校の使命でありつづけなければなりません。

いつまでも変化しない本質的なもの（「文武両道」）を堅持しつつも、時代の変化を取り入れて教育活動を推進していかねばなりません。

本校生が「東高に入学してよかった」、卒業生が「東高の卒業です」などと、母校に愛着と誇りを持てる学校づくりを進めてまいりたいと考えております。

どうぞ、同窓会の皆様におかれましては、御支援と御協力をお願い申し上げます。

福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。
[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。
第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項
[会員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。
[役員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会長 1名
2. 副会長 3～5名
3. 理事 若干名
4. 監事 3名
5. 幹事 若干名
第6条 役員は次のとおりとする。
1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。
4. 名誉会長は前会長とする。
第7条 役員は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]
第9条 本会に名誉会長と顧問をおける。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。
[総会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。
第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項
第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事で構成される役員会に委任することができる。
[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。
[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。
[会計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。
第19条 本会は入会に際し、入会金6,000円・終身会費6,000円を納入する。
第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかなえることができる。
附則 1. この規約には次の規程が付属する。
○ 在校生支援規程
この規約は昭和58年2月28日から施行する。
この規約は平成28年6月6日から改正する。

平成29年度 歳入歳出決算書

Table with 2 columns: Item, Amount. Rows: 歳入金額 5,093,705円, 歳出金額 4,343,942円, 差引残額 749,763円

1. 歳入 ▲は減少 単位:円

Table with 5 columns: Item, 29年度予算額, 29年度決算額, 比較増減額, 備考. Rows: 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 特別会計基金, 東高応援基金, 合計

2. 歳出

Table with 5 columns: Item (科目), 29年度予算額, 29年度決算額, 比較増減額, 備考. Rows: 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 名簿管理費, 通信費, 会報郵送費, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 公開文化祭後援費, 特別会計, 各種事業積立, 50周年事業積立, 特別会計積立, 予備費, 合計

* 項目科目間の流用を認める。

平成30年度 歳入歳出予算書

Table with 2 columns: Item, Amount. Rows: 歳入金額 4,732,000円, 歳出金額 4,732,000円, 差引残額 0円

1. 歳入 ▲は減少 単位:円

Table with 5 columns: Item, 30年度予算額, 29年度決算額, 比較増減額, 備考. Rows: 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 特別会計基金, 東高応援基金, 合計

2. 歳出

Table with 5 columns: Item (科目), 30年度予算額, 29年度決算額, 比較増減額, 備考. Rows: 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 名簿管理費, 通信費, 会報郵送費, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 公開文化祭後援費, 特別会計, 各種事業積立, 50周年事業積立, 特別会計積立, 予備費, 合計

* 項目科目間の流用を認める。

「東高応援基金」協賛者名

(敬称略)

※()は卒業期、()は旧姓
○「東高応援基金について」

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙にてお願いいたします。その際、おわかりになっていけば、卒業年度もしくは何期かをご記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

卒業生

渡辺真一(1)秋山達也(1)橋内重康(1)高橋賢次(1)三浦信彦(1)佐戸川政実(1)大平睦生(1)久能靖(1)笹木毅(1)落合範文(1)尾形幸男(1)菊池浩二(1)西山尚利(1)穴戸英樹(2)高橋治彦(2)渡辺武浩(2)荒木哲也(2)

齋藤正機(2)阿部真人(2)高城卓也(2)渡辺伸一(2)穴戸佐寿(2)小野浩樹(2)目黒幹浩(2)齋藤孝一(3)齋藤仁久(3)大内則和(3)蒲倉達也(3)佐藤和生(3)山田昌信(3)岡田正明(3)佐久間真二(3)柴田淳史(3)清野昭彦(3)安藤武仁(3)紺野勝弘(3)植田光樹(3)齋藤文孝(3)坂巻幸司(3)小林雄(3)泉田太郎(3)安田清克(3)尾形典良(3)紺野信幸(3)鈴木友彦(3)太田幸人(3)佐藤智彦(3)西條正美(3)金子與志人(3)寺島健吾(3)吉川裕(4)松本重明(4)上原子祐司(4)佐々木正則(4)氏家祥市(4)梅津清(4)三浦忠幸(4)佐藤真一(4)宗像和人(4)峯智和(4)三宅一秀(5)上川高志(5)室井克典(5)小野友史(5)小竹智行(5)手塚健一(5)作山稔樹(5)佐藤忠之(5)伊藤隆(5)古関啓(5)高橋俊二(5)緑上淳一(5)渡辺裕哉(5)菅野晃弘(5)木村誠(5)尾形隆(5)立谷保(5)渡辺伸克(5)高橋城士(6)山川毅(6)大槻一博(6)鈴木一義(6)小熊弘人(6)穴戸功(6)車田裕人(6)佐藤利久(6)福地誠志(6)山岸竜大(7)穴戸敢一(7)渡部泰史(7)加藤憲一郎(7)長谷川剛志(7)本多広導(7)大波哲也(7)松本琢也(7)阿曾一寛(7)佐々木崇(7)安齋晃(8)田代茂年(8)石原英明(8)鈴木淳(8)佐久間潤(8)坂本勝義(8)佐藤純一(8)東城幸治(8)小林孝雄(8)阿部崇(8)齋藤晃一(8)阿部貞昭(8)熊坂隆(8)菅野敦史(8)小野澤友成(8)関康徳(9)大槻進也(9)鈴木健一(9)伊藤(高野)宏之(9)齋藤弘樹(9)川瀬哲雄(9)鈴木勇人(9)渡辺剛(9)細野昌芳(9)後藤政

則(9)内山雄史(10)篠崎秀(10)遠藤司(10)石井哲司(10)熊本康(10)渡辺剛智(10)熊坂隆行(10)高橋誠(10)野口幸哉(10)吉田耕嗣(10)宮口剛(10)加藤芳史(10)渡邊秀一(10)菅野貴洋(11)高坂知秀(11)武藤達也(11)服部慎司(11)宮崎康弘(11)齋藤讓(12)阿部友弘(12)伊東博行(12)加藤学(12)齋藤弘樹(13)鳴原健二(13)石川亨(13)根本和彦(13)廣野功二郎(14)高橋剛(14)伊藤規義(14)丹治剛俊(14)中村充浩(14)中木三達(14)紺野真人(14)佐藤光太郎(15)菅野元樹(15)渡邊繁(15)山田俊嗣(15)高橋智典(15)渡辺秀一(15)齋藤訓朗(15)吉澤(仲山)陽子(16)橋本真(16)古関康宏(16)土屋令雄(16)大葉(尾形)真希(17)上杉光成(17)木内(佐瀬)智紀(18)今野陽介(18)水野裕史(18)野口(大槻)雪乃(18)佐藤望美(18)根本元徳(18)菊田大樹(18)齋藤和明(18)齋藤貴裕(18)阿部尚俊(18)片平美代子(19)浅川吉和(19)紺野秀一(20)佐藤雄一郎(20)櫻田貴志(20)二瓶真人(20)古山由佳(20)阿部真治(20)伊達孝浩(21)齋藤元(21)齋藤広彰(21)竹内大崇(22)加藤直樹(22)阿部健治(22)尾形慶(22)渡邊香織(22)佐藤宏樹(22)高野紀子(22)前澤智子(22)和田(古積)かおる(23)宮崎友哉(23)水口秀一(23)菅野数宙(24)瀬戸隆友(24)菅野章平(24)福地美香(24)国分優佳(24)阿部兼太郎(24)菅野峻介(24)見城藍(24)林直人(24)渡邊公偉(24)宮本圭太(25)齋藤大地(25)穴戸千恵(26)千代間祥之(26)橋本宏貴(26)佐藤芳哉(27)佐藤康太(27)根本明大(27)古山彩佳(27)穂積真人(27)萩原香澄(28)佐藤望(28)菱沼康平(28)五十嵐絵里

平成30年度在校生支援事業	
○定期演奏会・発表会補助	
・吹奏楽部	
第34回定期演奏会	50,000円
・合唱部	
第14回定期演奏会	50,000円
・ダンス部	
第10回定期発表会	20,000円
・美術部 桜美展	30,000円
○全国大会出場への激励金	
・山岳部	120,000円
・美術部	30,000円
・放送委員会	30,000円
・サッカー部	30,000円
○体育設備支援	
・ジェットヒーター	311,256円
・弓道部防矢ネット	180,000円
○公開文化祭支援	230,000円

(28)本田航(28)澤井友平(28)岩瀬里実(28)黒澤美幸(29)宗像麻衣(29)佐藤匠(29)岩崎翔(29)菊池貴之(29)高橋理沙(29)加藤真弓(29)薄健介(29)菅野良太(30)萩原夏美(30)幕田隆介(30)佐藤雅(31)菅野友美(31)杉内瑛(31)吉田友和(31)鈴木俊大(31)田中優幸(31)渡邊信孝(31)大貫秀人(31)高橋史弥(31)小林聡(31)見城航(31)澤井直久(31)豊田大智(31)金子耕也(32)小野祥生(32)元村隼登(32)山岸勇士郎(32)高野沙耶佳(32)油井真理絵(32)鈴木美結(32)安齋由貴(32)福富亮(32)三津間龍太郎(32)蔵野建至(33)門間琢朗(33)丹治航(33)赤間大樹(33)阿部優汰(33)鈴木翔子(33)羽田優花(33)加藤佳耶子(34)後藤千尋(34)遠藤瑠菜(34)藍原賢太(34)上原子祐祐(34)菅野修磨(34)渡辺玲奈(34)三好駿(34)小椋亮佑(34)佐々木茜(34)菅野陽平(34)鈴木大貴(34)井實玄(35)佐藤世理(35)清野敦士(35)玉川結麻(35)寒河江勇介(35)菅波海斗(35)松本彩来(35)片平翔大(35)佐藤綾音(35)本多耕大(35)阿部真大(35)渡邊絢

香(35)渡辺凱也(35)鈴木あきよ(35)遠藤裕(35)長谷川遼(35)
旧職員 村上啓正、瓜生浩、深澤陽一、西勝文夫、穴戸英樹、梅宮賢、阿久津正廣、諏佐一夫、黒澤元省、平岩典男、藤田敏夫、田村秀夫、渡部雄二、加藤義博、亀岡貞彰、渡辺州、穴戸路枝、長谷川和弘、渡辺裕子、齋藤和也、星和久、丸山正好、千葉宏、菅野賢二、佐藤恵治、松本緑、矢部邦子、三浦賢一、平山宏、本多光弥、渡辺喜市
福島市役所東桜会
◎平成三十年四月一日から現在までに振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

(表1) 年度別 現役合格者 延べ人数

卒業年度	1期 S57年	2期 S58年	3期 S59年	4期 S60年	5期 S61年	6期 S62年	7期 S63年	8期 H1年	9期 H2年	10期 H3年	11期 H4年	12期 H5年
学級数	6	6	6	6	8	8	8	8	9	9	9	9
卒業者数	(281)	(265)	(262)	(283)	(365)	(361)	(372)	(376)	(427)	(423)	(431)	(421)
国公立大	72	57	78	62	93	70	103	78	65	88	109	96
私立大	160	117	144	129	199	180	225	259	188	278	291	333

卒業年度	13期 H6年	14期 H7年	15期 H8年	16期 H9年	17期 H10年	18期 H11年	19期 H12年	20期 H13年	21期 H14年	22期 H15年	23期 H16年	24期 H17年
学級数	9	9	8	8	9	9	9	9	9	9	8	8
卒業者数	(408)	(403)	(357)	(354)	(351)	(354)	(362)	(350)	(358)	(359)	(314)	(316)
国公立大	109	85	109	113	114	145	150	115	165	153	154	171
私立大	299	418	413	327	313	311	346	349	247	248	305	322

卒業年度	25期 H18年	26期 H19年	27期 H20年	28期 H21年	29期 H22年	30期 H23年	31期 H24年	32期 H25年	33期 H26年	34期 H27年	35期 H28年	36期 H29年
学級数	8	8	8	8	8	8	8	7	8	7	7	7
卒業者数	(318)	(313)	(310)	(307)	(316)	(311)	(315)	(281)	(312)	(275)	(274)	(275)
国公立大	126	139	165	115	134	139	109	94	102	90	100	112
私立大	329	351	240	284	265	373	319	334	438	390	362	340



進路指導部主任
松本 重明

進路

まず二〇一八年全国の入試動向について説明します。センター試験においては、九〇〇点満点の平均点では文系型が五五四点、同じく理系型が五六四点と昨年度とほぼ変わらない状況

であった。科目別の平均点においては英語リスニング、生物が大幅にダウンしたものの、一方で地理Bや化学等で平均点が上昇した。志願者数については国公立大学全体ではやや志願者数が減少している。これは後期日程廃止にした大学の増加が影響しているものと見られる。系統別では就職状

(表2) 大学別合格者数 (平成29・28・27年度入試)

大学名	平成29年度生	平成28年度生	平成27年度生
北海道大	1	0	0
北見工業大	0	2	0
北海道教育大(旭川)	1	0	0
北海道教育大(函館)	1	0	0
室蘭工業大	1	2	0
弘前大	0	0	1
岩手大	3	1	1
東北大	0	4	2
宮城教育大	0	1	0
秋田大	2	0	1
山形大	14	11	10
福島大	47	27	35
茨城大	1	4	5
筑波大	1	3	1
宇都宮大	2	4	1
群馬大	0	0	1
埼玉大	2	1	5
東京学芸大	0	0	1
新潟大	13	9	4
上越教育大	1	1	0
富山大	1	0	0
静岡大	0	0	1
長崎大	0	0	1
釧路公立大	0	0	1
青森公立大	1	0	0
岩手県立大	0	2	0
宮城大	0	0	2
秋田県立大	0	6	1
山形県立保健医療大	1	1	1
会津大	4	2	1
福島県立医大(看)	2	4	1
前橋工科大	0	1	0
群馬県立女子大	0	2	1
高崎経済大	5	2	5
千葉保健医療大	0	1	0
新潟県立大	3	4	1
新潟県立看護大	0	1	0
長岡造形大	1	0	1
都留文科大	0	0	1
長野大	1	3	
尾道市立大	1	0	0
鳥取環境大	1	0	1
名桜大	1	1	3
その他	0	0	0
計	112	100	90

大学名	平成29年度生	平成28年度生	平成27年度生
仙台大	1	3	8
東北学院大	49	29	38
東北福祉大	33	57	40
東北医薬科大	5	3	2
宮城学院女子大	11	8	10
東北芸術工科大	2	2	0
国際医療福祉大	10	6	9
白鷲大	9	15	17
獨協大	2	8	2
文教大	4	12	8
女子栄養大	0	2	2
神田外語大	3	1	4
淑徳大	2	4	2
青山学院大	1	1	0
北里大	0	0	3
國學院大	2	0	0
駒澤大	7	5	9
芝浦工業大	0	1	2
成蹊大	1	2	0
成城大	0	2	2
専修大	6	8	7
大東文化大	11	2	3
玉川大	0	2	4
中央大	3	3	4
帝京大	5	3	2
東海大	18	13	11
東京工科大	1	4	3
東京農業大	0	3	0
東京理科大	0	0	1
東洋大	4	13	16
日本大	20	32	40
日本社会事業大	0	1	1
日本女子大	1	0	2
法政大	3	4	6
明治大	1	2	3
明治学院大	1	0	0
立教大	0	0	1
早稲田大	0	2	1
神奈川大	9	23	11
関東学院大	4	3	4
新潟医療福祉大	5	4	4
同志社大	0	2	1
立命館大	1	3	4
その他	105	74	103
計	340	362	390

現役大学等進学率…36期 平成29年度生 (84.8%)、35期 平成28年度生 (86.5%)、34期 平成27年度生 (80.7%)

況が好調であることを背景に文系が人気傾向となっている。特に経済・経営、社会学といった社会科学系統の学部の人気が高い。理系においては社会的要請の高い情報系に志願者が集まっている特徴が見られる。一方で私立大学は、文部科学省による「入学定員の厳格化(定員超過率が低いと補助金が交付されない)」の影響で併願校を増やす受験生の動きと、国公立大学の後期定員減少で国公立大を避ける動きが増加したことにより、志願者数は増加傾向である。しかし一方で合格者数は減少しているため、特に志願者が多い大都市圏の難関大学は昨年以上に狭き門となった。

推薦・AO入試については、国公立大学協会が推薦・AO入試の募集人員を三十%とする目標が掲げられたことを受けて昨年度よりも募集人員が増加している。

本校現役生の進路状況については、国公立大学合格者が昨年度より十二名増加し、七クラス体制になってからは最高数である一二名となった。合格者一二名のうち推薦・AO入試の合格者は十八名と、昨年度に比べ二名減であるが、一方で一般入試による合格が九十四名と昨

年の八十名を大きく上回った。特に増加が目立ったのが福島大学で、昨年の二十七名から四十七名合格と二十名の増となった。近隣の大学での学科改組等もなく、他県からの志願者が減少したことにより、昨年度より広き門になったことがあげられる。特に社会科学系学部においては、経済経営学類は昨年度比すると七十(昨年の受験者数を一〇〇とする)、また行政政策学類は六十七と両学類の志願者が多い本校においては合格者増の追い風となった。また新潟大学においては合格者が過去最高の十三名となった。

一方で難関国公立大学の合格については、北海道大学で一名、筑波大学一名のみと厳しい結果となった。特に東北大学においては昨年度四名の合格に対して今年度は合格者無しであった。東北大学は昨年度東京大学・京都大学とともに「指定国立大学法人」に指定され、国内最高水準の研究力・社会連携・国際協同が認められた。この影響で難関大学十大学の中で最も志願者が増加(昨年度比一〇九)し、厳しい受験となった。今回の反省から、東北大学の希望生徒については、AO・一般入試とも早期から合格のための指導と情

報収集を徹底していきたい。最後に、今年度入学した三十九期生より新テスト(共通テスト)が始まる。本校でも少しずつではあるが、英語のスピーキング等でその対策が始まっている。共通テスト導入により各大学で入試制度の変更も考えられるが、現在のところ国公立大学においては二年後の具体的な入試制度についてはまだ一部の大学のみ発表されている状況である。情報が出揃い次第、本校でもそれらの内容に応じた指導ができるようにしていきたい。

36期総括



36期学年主任
荒 義紀

「三十六期担任団の学年会はいつも賑やかだ。そんなことを他学年の先生方からも言われていたし、自分たちでも自覚していた。とにかく、提案に対して「異議なし」で終わることはまず無かった。「〇〇〇、どうでしょう?」に、間髪入れずに賛成と反対の両方の声、誰からともなく両者が納得できるような改善案の提案、そしてその改善案に対する賛成と反対の声。今、こ

うして文を書いていても、嬉しさで顔がにやけてしまうような活発な意見の交換が、そこにあった。

卒業式の夜、校長先生が言った「すまなそうな顔をして、とんでもない要望を持ってくる。」とは、まさに言っていて妙。それらのアイデアは、いつもそんな学年会から生まれていた。

すべてのアイデアには、一つのポリシーが貫かれていた。三十六期生には日常的に言葉にして投げかけていたので、今さら：だろが、総括なので同窓生先輩方に紹介したい。それは「一人で立てる人をつくる」だった。だから、極力生徒たちから手を離し、自ら判断し行動せざるを得ない状況をつくらうとした。二年生の時の定期考査の午後、担任全員が休みを取り二本松に出かけたのも、そうした考えに基づく行動だった。三十六期の生徒は、学びは自ら行うものだということを改めて認識し、三十六期の担任団は、日本の祭りの素晴らしさを再認識できた。まさに一石二鳥の名企画だった。

そうした企画の集大成が修学旅行だった。三十六期生が自ら考え行動できることを前提に考えられた旅行計画には、常識的

に考えれば四日間の日程では不可能な数の企画が、ぎゅうぎゅうに詰め込まれていた。旅行会社の担当者が、「ここはきつくないですか?」というたびに、高梨先生は大きな目をもっと大きく見開いて「大丈夫です。あいつら東高生ですから!」と言った。つまりあの修学旅行が成功するか否かは、三十六期生が自ら行動できるかどうかにかかっていたと言っている。さてその結果は…。

三十六期生は、私たちの想像を上回るパフォーマンスを見せてくれた。指示をしようとする時には、すでに行動している姿があった。自主研修の出発時刻をフリーにすると、七時十五分までにすべての班が発発。宿のロビーは静寂に包まれた。前夜の学年会で急遽決まった超速荷物搬出作戦も、説明をすぐに理解する地頭の良さで行動力で大成功。二九〇人分のキャリーケースすべてが、流れるように各部屋からトラックに積み込まれる様子は、USJでも披露できそうな見事なショーだった。しかもそれが二十分程度で終了。三十分でできたら上出来と思っていた担任団の想定を、軽やかに超えてくれた。なんてヤツらだ。

最終日、福島に着く新幹線では降車の指示さえしなかった。それでも全員が無事に降車し、なんてことなく整列完了。修学旅行中、三十六期生は自ら判断し行動できる人間の集団であることを何度も証明してくれた。その一つ一つが、今でも担任団の自慢だ。

さて、学習面。私たちはこ

でも手を離すことを選択した。「本当に大丈夫かな？」不安をたつぷり抱えながら、頑張っ

必要だ。管理下に置くのに比べてリスクは跳ね上がり、不測の事態のパターンは激増、同時に事前に準備する対応パターンも激増する。さすがにこれはやり過ぎか？そんな迷いの中で、三十六期生に対する信頼が私たちの背中を押したのは確かだが、それだけで企画が実現するわけではない。

「現地集合型の自然文化探究学習」なんて、普通は保護者に反対される。保護者の皆様の大きな理解と寛容そして力強い後押しが、いつも私たちをのびのびと行動させてくれた。それがどれほどありがたかったかを、文章で表現することは難しい。

三十六期担任団の学年会は、いつも賑やかだった。その中心にはいつも、何が生徒にとつてプラスか、何が彼らをより成長させるのか、それを考えようという共通の姿勢があった。だから、激しい意見の交換も決して互いを攻撃するものにはならず、安心して議論ができた。学年会は自然と、どうしたら実現可能かを考えるものになることが多かった。即座に廃案になったのは、修学旅行ゲーム三泊四日案くらいしか思い出せない。

東高の先生方にも、いつも助けていただいた。授業や課外はもちろん、全ての先生方が三十六期生の個別指導にあたってく

明るく前向きで、あたたかい空気をそれぞれが発し合っており、互いを温めるような先生方と、スクラムを組んで三十六期生のために働いたことを、この場をお借りしてあらためて神様に感謝したい。いやもちろん、各先生方への感謝の念は強く持っているが、あんなにそれぞれが足りないところを埋めあえる組合

せつて、神様の御差配に違いないと思うのだ。組合せといえは、三十六期生の保護者の皆様、そして三十六期生に関わってくださった東高のすべての先生方とのめぐりあわせもまた、神様の御差配に違いない。

生徒から手を離す。これには大きな勇気と覚悟そして保険が

持ち前の明るさが戻ったのは、先生方のご理解があつてこそ

だった。

最後になるが、三十六期生諸君。あなたたちは明るくてノリが良く、現代の高校生がドン引きしそうな企画にも笑顔で参加して、担任団に寂しい思いをさせないでくれた。まじめで芯が強く、厳しい場面でも踏ん張りを見せてくれた。二十四時間では足りないくらいの高レベルな文武両道生活の中で、たくましく成長する姿を見せてくれた。時に調子に乗りすぎるが、爽やかにごめんなさいと言って、私たちをホッとさせてくれた。

た。数分で弁当を食べ終えるという、東高の伝統技術を習得・継承してくれた。そして、いつも大きな声であいさつしてくれた。その一つ一つの姿が、私たち担任団に大きなエネルギーを与えてくれていた。本当にありがとう。

全国大会出場報告

国民体育大会に参加して

サッカー部 藤原 秀斗

私は、十月に福井県で行われた、福井幸せ元気国体に参加してきました。

この大会に参加することは幼いころからの目標であり、メンバーに選出されたときはとても嬉しかったです。福島選抜のほとんどの選手



が、尚志高校出身で強豪校ということもあり自分がチームにうまく馴染むことができるか、チームにとって必要な選手になれるかと心配でした。しかし、

トレセンマッチや東北総体で共にプレーしていく中で、一人一人の特徴を掴むことができ、また積極的にコミュニケーションをとることで徐々に打ち解けることができ、自然とプレー面でも意思の疎通ができるようになり、チームの一員としてやっていける自信ができました。

そして大会初戦当日、監督から先発を伝えられたときは、うれしい反面、失敗したらどうしようという弱い自分が出てきました。しかし、東高校サッカー部のメンバー達や克幸先生など、たくさんの人たちからの期待を裏切らないように、また選考会でメンバーから外された仲間分まで全力で試合を行いました。結果は愛媛県に三対二で勝利、続く優勝した埼玉県には一対二で惜敗し、ベスト8で国体を終えました。

もちろん悔しさはありますが、それ以上に自分のプレーが全然通用しなかったという焦る気持ちの方が大きかったです。

今回、国体という舞台でプレーできたことは自分にとって大きな原動力になりました。日々の練習で多くの改善点を克服し、プロサッカー選手になるという目標の実現へ向けて、さらなる努力をしなければいけないと痛

感させられた大会になりました。

第六十二回全国高校登山大会(三重) 参加報告

山岳部顧問 村上 英夫

八月四日から七日まで、鈴鹿山脈の三重県側で開催された全国登山大会に参加させていただきました。選手は三年生の菱沼寛斗と平怜恩、二年生の星野京介と斎藤淳。夏の鈴鹿の山は暑めらうほど。そのため準備では暑さ対策に力を入れ、心肺機能と代謝機能を高めるトレーニングを強化。また装備も重要で、軽量化と暑さへの対応が必要でした。同窓会や後援会、高体連からいただいた資金を活用させていただき、通気性の良いテントや速乾性に優れたユニフォーム等を購入。三年前に滋賀インターハイに出場した時に、やはり補助金で購入していたザックやハイドレーションセットも大いに役立ちました。

大会中は連日猛暑で、特に東海地方は日本中で最も気温が高い日が続いたため、大会実行本部はドクターにアドバイスを受けながら、行程を半分短縮しコースも変更する異例の運営を強いられました。



おかげで体力的な負担は大きく軽減されました。それでも他の県はいくつかのパーティーが熱中症で行動離脱しましたが、本校選手たちはむしろ少し物足りなさそうに頑張っていました。

事前の下調べと準備に二ヶ月かけ、特に三年生の二人は受験勉強の合間を縫って懸命にトレーニングに励んだ甲斐あって、元気に立派にすべてをやり抜き、他県の選手達とテントを囲み楽しそうに交流する場面もあり、想い出に残る貴重な時間を過ごしたようです。成績は、細かなミスがいくつか重なり三十三位でしたが、大会で得られた経験とノウハウは、東高山岳部の大切な財産になりました。参加を援助して下さいました方々に厚く御

礼申し上げます。

全国高総文祭長野大会に参加して

美術部顧問 真柴 毅

平成三十年八月十日から十一日にかけて、長野県上田市で開催された全国高等学校総合文化祭の美術・工芸部門に本校美術部三年の齋藤菜緒が福島県代表として参加しました。彼女は福島県総合美術展で県教育長賞を二年連続で受賞している実力者です。今回の出品作も前年度の県高校美術展で高く評価され、三〇六点の中から全国展推薦作品の七点に選ばれました。美術部としては二年ぶりの全国展への出品になります。

会場であるサントミュージゼ(上田市立美術館)は、二〇一六年の大河ドラマ「真田丸」で話題になった上田城跡公園の近くにありました。四年前にオープンした綺麗な展示室には、各都道府県から選出された作品約四百点が所狭しに並べられています。作品は絵画、彫刻、デザイン、工芸などバラエティーに富んでいます。どの作品からも現代に生きる若者のみずみずしい感性とあふれる創造力が伝わってきました。特に彫刻作品

は近年充実しており、素材の多様さや高い技術力など個人的に強く印象に残っています。

今回は日程の都合で総合開会式を鑑賞できず残念でしたが、部門開会式と講演会、交流会に参加して全国の高校生と親睦を深めることができました。グループに分かれて作品を鑑賞し、互いに意見を出し合う「対話型鑑賞」、張り子のりんごにサインし合う「アップル交流会」など、どれも仲間とともに感性を磨き、高め合い、日々の創作活動のエネルギーとなる貴重な体験ばかりです。これら様々な収穫を持ち帰り、これからの創作意欲に繋げ、より高いレベルの作品が生まれることを願ってやみません。

全国展への参加にあたり、同窓会から励ましのお言葉と多大



な激励金をいただきました。心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援くださいますようお願いいたします。

NHK杯高校放送

コンテストに参加して

放送委員会顧問 伊藤 規生

今年NHK杯高校放送コンテスト(以下「Nコン」)にラジオ番組とアナウンス(個人)で参加して参りました。二年連続の、複数部門での出場となりました。

参加権を得たのは「創作ラジオドラマ部門」「アナウンス部門」で、ラジオドラマは高校生が考えたオリジナルの八分のラジオドラマを作り、そのできばえを競うものです。夢をあきらめた主人公が、あるきっかけで夢を取り戻していくという筋書きです。ストーリー自体はありきたりですが、構成を工夫したり、劇中劇を盛り込んだりしてオリジナリティーを追求しています。アナウンスは九十秒以内で校内ニュース原稿を作り、原稿のできばえと読みの技量を競うものです。

生徒たちは上位入賞目指して細部にわたって作り込みを行い、アナウンスは一番のバ

フォーマンスをしてくれましたが、審査員たちの目を引くには至らなかったようです。

来年は全国出場だけでなく、上位進出できるように、努力したいと思います。

毎度のことですが、同窓会から頂く激励金は生徒たちの自己負担軽減に役立てさせて頂いております。感謝申し上げます。

同窓会とやろ!

同窓会事務局を名乗る電話が同窓生の自宅にかかってくるという苦情が学校に寄せられることがあります。同窓生の携帯電話の番号や現住所を聞くことが多いようです。事務局では一切このような電話をしておりませんので注意して下さい。なお、このような場合、「東高に確認してみます」と対応して下さい。

同窓会からの連絡は郵送です。電話等による問い合わせは原則的にはしません。どうしても電話連絡が必要な場合は、東高あてに掛け直してもらっています。

東高の電話番号は 024-531-1551 です。

●運動部

野球部

- ▼第70回春季東北地区高等学校野球福島県大会県北支部予選 1回戦 6-0保原 (4月23日 信夫ヶ丘球場)
- 2回戦 2-6福島商 (4月29日 信夫ヶ丘球場)
- 敗者復活2回戦 13-1福島明成 (5月1日 信夫ヶ丘球場)
- 第5代表決定戦 3-2福島 (5月4日 信夫ヶ丘球場)
- ▼第70回春季東北地区高等学校野球福島県大会 1回戦 1-7学法石川 (5月20日 県営あづま球場)
- ▼第61回春季県北支部高等学校野球選手権大会 1回戦 7-1安達 (6月9日 県営あづま球場)
- 2回戦 2-3学法福島 (6月10日 ぼばら大泉球場)
- ▼第100回全国高等学校野球選手権記念福島大会 1回戦 2-3会津 (7月9日 あいづ球場)
- ▼第70回秋季東北地区高等学校野球福島県大会県北支部予選 1回戦 7-4福島北 (8月25日 県営あづま球場)

平成30年度部活動報告

2回戦 3-4福島

(8月27日 県営あづま球場) 敗者復活2回戦 7-4保原 (8月29日 県営あづま球場)

敗者復活3回戦 2-6安達 (8月31日 県営あづま球場)

▼第29回秋季県北支部高等学校野球選手権大会 1回戦 2-12聖光学院 (10月19日 ぼばら大泉球場)

▼平成30年度福島県高等学校体育大会サッカー競技県北地区大会 (5月11日) 14日福島市十六沼公園サッカー場

第2位 2回戦 5-0本宮 (5月12日 十六沼公園サッカー場)

準決勝 7-0福島成蹊 (5月13日 十六沼公園サッカー場)

決勝 0-2福島工業 (5月14日 十六沼公園サッカー場)

▼平成30年度第64回福島県高等学校体育大会サッカー競技 (5月26日) 28日熱海フットボールセンター、鳥見山多目的広場、福島市十六沼公園サッカー場、6月2日、3日熱海フットボールセンター)

ベスト8 1回戦 3-0安積

(5月26日 熱海フットボールセンター) 2回戦 3-1会津工業 (5月27日 熱海フットボールセンター) 準々決勝 0-9尚志 (5月28日 熱海フットボールセンター)

▼F1リーグ(高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ) 福島県 第5位

勝ち点29(8勝5敗5分) 第1節 0-1白河 (4月7日 十六沼公園サッカー場)

第2節 1-2福島工業 (4月14日 十六沼公園サッカー場)

第3節 2-0郡山商業 (4月21日 十六沼公園サッカー場)

第4節 0-5学法石川 (4月28日 十六沼公園サッカー場)

第5節 2-0ふたば未来学園 (5月3日 広野町サッカー場)

第6節 0-0郡山 (5月6日 広野町サッカー場)

第7節 1-1帝京安積 (6月9日 十六沼公園サッカー場)

第8節 1-0尚志2nd (6月23日 尚志高校)

第9節 1-0いわき光洋 (6月30日 いわきフットボールセンター)

第10節 2-1白河 (7月7日 十六沼公園サッカー場)

第11節 3-1福島工業 (7月14日 十六沼公園サッカー場)

第12節 0-5郡山商業 (7月16日 熱海フットボールセンター)

第13節 0-6学法石川

(7月21日 十六沼公園サッカー場)
 第14節 3―1ふたば未来学園
 (8月25日 新舞子フットボール場)
 第15節 2―0郡山
 (9月1日 十六沼公園サッカー場)
 第16節 1―1帝京安積
 (9月8日 十六沼公園サッカー場)
 第17節 2―2尚志2nd
 (9月15日 尚志高校)
 第18節 1―1いわき光洋
 (9月22日 十六沼公園サッカー場)
 ▼F3リーグ (高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ2018福島県北)
 第7位
 勝ち点25 (8勝5敗1分)
 第1節 3―0福島西
 (4月21日 福島東高校)
 第2節 3―5保原
 (4月29日 福島明成高校)
 第3節 0―1福島南
 (5月3日 福島明成高校)
 第4節 2―0福島
 (6月9日 十六沼公園サッカー場)
 第5節 3―1福島商業
 (6月16日 福島工業高校)
 第6節 4―0松韻福島
 (6月23日 福島東高校)
 第7節 0―0二本松工業
 (6月30日 二本松工業高校)
 第9節 0―2福島工業2nd
 (7月14日 福島商業高校)
 第10節 4―1橘
 (7月21日 十六沼公園サッカー場)

第11節 5―0安達
 (7月27日 十六沼公園サッカー場)
 第12節 7―0福島明成
 (7月30日 十六沼公園サッカー場)
 第13節 0―2福島成蹊
 (8月9日 十六沼公園サッカー場)
 カ―場↓9月2日福島南高校)
 第14節 0―4聖光学院2nd
 (9月1日 十六沼公園サッカー場)
 第15節 3―0本宮
 (9月8日 福島明成高校)
 ▼第97回全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会
 ベスト8
 1次大会 免除
 2次大会
 3回戦 7―0葵
 (10月13日 鳥見山多目的広場)
 4回戦 4―1白河
 (10月14日 鳥見山多目的広場)
 準々決勝 0―3学法石川
 (10月20日 十六沼公園サッカー場)
 ▼平成30年度福島県高等学校新入体育大会サッカー競技県北地区大会 (11月9日〜12日福島市十六沼公園サッカー場)
 第3位
 1回戦 5―0保原
 (11月9日 十六沼公園サッカー場)
 2回戦 5―0安達
 (11月10日 十六沼公園サッカー場)
 準決勝 0―3福島工業
 (11月11日 十六沼公園サッカー場)
 敗者復活4回戦 1―0福島南

(11月12日 十六沼公園サッカー場)
 3位決定戦 4―0福島商業
 (11月12日 十六沼公園サッカー場)
 ▼平成30年度福島県高等学校新入体育大会サッカー競技 (11月23日〜25日、12月1、2日いわきグリーンフィールド、多目的広場ほか)
 1回戦敗退
 1回戦 1―2清陵情報
 (11月23日 いわきグリーンフィールド多目的広場)
卓球部
 ▼福島県高等学校体育大会県北地区大会
 男子
 学校対抗 3位(県大会出場)
 個人シングルス
 佐藤・鈴木 (県大会出場)
 ダブルス
 佐藤・鈴木
 山科・小河原(県大会出場)
 女子
 学校対抗 5位(県大会出場)
 ダブルス
 篠田・斎藤 (県大会出場)
 ▼福島県高等学校体育大会県大会
 男子
 学校対抗 3―0須賀川
 3回戦 3―1喜多方
 4回戦 0―3帝京安積
 (ベスト8)

個人シングルス
 佐藤・鈴木 (2回戦敗退)
 ダブルス
 佐藤・鈴木
 山科・小河原 (1回戦敗退)
 女子
 学校対抗
 1回戦 2―3会津
 ダブルス
 篠田・斎藤 (1回戦敗退)
 ▼第71回福島県総合体育大会卓球競技県北地区予選
 男子
 学校対抗
 第4位 (県大会出場)
 個人シングルス
 佐藤・小河原 (県大会出場)
 女子
 個人シングルス
 大内・尾形 (県大会出場)
 ▼第70回福島県総合体育大会卓球競技県大会
 男子
 学校対抗
 1回戦 3―2会津工業
 2回戦 0―3帝京安積
 (ベスト16)
 個人シングルス
 佐藤 (緒戦敗退)
 小河原 (3回戦敗退)
 女子
 個人シングルス
 大内・尾形 (初戦敗退)
 ▼平成30年度全日本卓球選手権

大会県北地区予選
 男子
 ジュニアシングルス
 佐藤・小河原・渡辺・原田・佐々木 (県大会出場)
 ダブルス
 佐藤・渡辺ペア
 佐々木・森ペア (県大会出場)
 女子
 ジュニアシングルス
 大内・寺嶋・尾形
 大内・尾形ペア (県大会出場)
 ダブルス
 大内・尾形ペア (県大会出場)
 混合ダブルス
 佐藤・大内ペア (県大会出場)
 ▼平成30年度全日本卓球選手権大会福島県予選
 男子
 ジュニアシングルス
 小河原・渡辺・原田
 (3回戦敗退)
 佐藤・佐々木 (緒戦敗退)
 ダブルス
 佐藤・渡辺ペア (3回戦敗退)
 佐々木・森ペア (緒戦敗退)
 女子
 ジュニアシングルス
 大内 (ベスト32)
 ダブルス
 竹内・大内ペア (2回戦敗退)
 混合ダブルス
 佐藤・大内ペア (緒戦敗退)
 ▼福島県高等学校新入体育大会

女子

予選トーナメント

福島東 68―52 本宮

福島東 48―128 福島商業

県大会出場決定トーナメント

福島東 43―100 安達

▼福島県高校バスケットボール選手権大会

男子

1 回戦 福島東 63―95 日大東北

▼福島県高等学校新人体育大会 県北地区大会

男子

予選トーナメント

福島東 165―10 福島北

福島東 68―79 福島工業

出場決定トーナメント

福島東 80―36 学法福島

女子

予選トーナメント

福島東 38―68 福島南

出場決定トーナメント

福島東 65―47 本宮

福島東 37―100 安達

▼福島県高等学校新人体育大会

男子

1 回戦 福島東 82―50 帝京安積

2 回戦 福島東 67―72 若松商業

▼福島県高等学校体育大会県北地区大会

男子

予選リーグ

二本松工、福島北、保原に

2―0で勝ち ブロック1位
決勝リーグ

学法福島、福島明成に2―0で、福島工に2―1で勝ち、福島商に1―2で負け

11チーム中 第2位

女子

予選ブロック

福島東 2―0 安達

福島東 2―0 福北

福島東 0―2 福島南

福島東 2―0 明成

福島東 0―2 橘

福島東 0―2 聖光

福島東 2―0 福島東稜

14チーム中 5位

▼福島県高等学校体育大会

男子

第1回戦 福島東 2―0 安積

第2回戦 福島東 2―0 平工業

準々決勝 福島東 0―2 相馬

ベスト8

▼福島県総合体育大会県北地区大会

男子

予選リーグ

学法福島、福島西に2―0で勝ち、保原、聖光学院に

0―2で負け ブロック3位

順位決定リーグ

福島北、学法福島に2―0

で勝ち、福島に1―2で負

け 10チーム中 第6位

県大会出場

女子

予選ブロック

福島東 0―2 明成

福島東 0―2 福島西

福島東 2―0 福島

予選敗退 9位

▼福島県総合体育大会

男子

第1回戦 福島東 0―2 会津学鳳

▼県北地区1年生大会

男子

第1回戦 福島東 2―0 福島西

準決勝 福島東 2―0 聖光学院

決勝戦 福島東 0―2 福島工業

準優勝

▼県北地区高等学校バレーボール秋季選手権大会

男子

予選リーグ

福島北に2―0で勝ち、保

原に0―2で負け

ブロック2位

決勝リーグ

福島、福島明成に2―0で

勝ち 11チーム中 第4位

女子

予選ブロック

福島東 0―2 福島南

福島東 2―0 福島北

順位決定トーナメント

福島東 0―2 橘

福島東 0―2 保原

14チーム中 7位

▼福島県高等学校体育大会新人

大会県北地区大会

男子

予選リーグ

福島、聖光学院に2―0で

勝ち

リーグ1位

決勝リーグ

福島工業、保原に0―2で

負け、福島に2―1、学法

福島、福島明成に2―0で

勝ち 10チーム中 第4位

女子

予選ブロック

福島東 0―2 福島商業

福島東 0―2 成蹊

順位ブロック

福島東 2―0 福島北

福島東 1―2 福島

14チーム中12位

▼福島県高等学校体育大会新人大会

男子

1 回戦 福島東 2―0 会津農林

2 回戦 福島東 0―2 白河実業

▼福島県春季ジュニアシングル

ス選手権大会県北地区予選

男子 18歳以下

9位 大泉和己

10位 富田健司

13位 佐藤和也

女子 18歳以下

3位 野地紅美子

7位 秋葉真凜

8位 渡邊歩実

9位 國分彩花

10位 大槻理佳

11位 高野遥香

▼福島県春季ジュニアダブルス

選手権大会県北地区予選

男子 18歳以下

4位 佐藤魁・吉田直輝

6位 大泉和己・富田健司

7位 成田凱・佐藤大典

女子 18歳以下

2位 野地紅美子・渡邊歩実

5位 高野遥香・國分彩花

▼福島県春季ジュニアシングル

ス選手権大会

男子 18歳以下

ベスト16 佐藤魁

女子 18歳以下

12位 野地紅美子

▼福島県春季ジュニアダブルス

テニス選手権大会

男子 18歳以下

ベスト16 佐藤魁 吉田直輝

女子 18歳以下

ベスト8

▼福島県高等学校体育大会県北地区大会

男子

学校対抗 4位

シングルス

4位 佐藤魁

ダブルス

4位 大泉和己・富田健司

5位 佐藤魁・吉田直輝

女子
 学校対抗 3位
 シングルス
 6位 野地紅美子
 8位 秋葉真凜
 ダブルス
 3位 野地紅美子・渡邊歩実
 7位 秋葉真凜・大槻理佳
 ▼福島県高等学校体育大会
 男子
 学校対抗 2回戦敗退
 シングルス
 ベスト16 佐藤魁
 女子
 学校対抗 2回戦敗退
 ダブルス
 ベスト8
 野地紅美子・渡邊歩実
 ベスト16
 秋葉真凜・大槻理佳
 ▼福島県総合体育大会県北地区
 大会
 男子
 I部シングルス
 3位 富田健司
 11位 安田宏大
 I部ダブルス
 5位 富田健司・安田宏大
 13位 菅野純平・渡邊雄大
 II部シングルス
 7位 縦山岳大
 II部ダブルス
 2位 松崎慧・藤田真一路
 女子

I部シングルス
 12位 立谷美羽
 I部ダブルス
 9位 立谷美羽・先崎千紘
 II部シングルス
 優勝 尾形洺理
 8位 亀田有咲
 II部ダブルス
 優勝 尾形洺理・亀田有咲
 ▼福島県総合体育大会
 男子
 I部シングルス
 15位 富田健司
 I部ダブルス
 ベスト16 富田健司・安田宏大
 II部ダブルス
 ベスト8
 洪谷匠・高橋壮太郎
 ベスト16
 松崎慧・藤田真一路
 ▼県北ジュニアシングルステニス選手権大会
 男子
 6位 富田健司
 14位 安田宏大
 ▼福島県高等学校新人体育大会
 県北地区大会
 男子
 団体戦 3位
 シングルス
 3位 富田健司
 13位 安田宏大
 15位 丹治陸
 女子

女子
 シングルス
 14位 尾形洺理
 ▼福島県高等学校新人テニス選手権大会
 男子
 団体戦 2回戦敗退
 女子
 団体戦 1回戦敗退
 ▼県北秋季ジュニアテニス選手権大会
 男子
 シングルス
 4位 富田健司
 9位 丹治陸
 ダブルス
 4位 富田健司・安田宏大
 5位
 菅野純平・高橋壮太郎
 8位 松崎慧・藤田真一路
 12位 縦山岳大・高橋悠真
 女子
 シングルス
 5位 尾形洺理
 15位 立谷美羽
 ダブルス
 6位 尾形洺理・亀田有咲
 11位 立谷美羽・先崎千紘
 15位 八木渚月・大内彩花
 ▼福島県高等学校体育大会県北地区大会
 男子
 団体 第3位
 柔道部
 ▼福島県高等学校体育大会
 男子個人
 60kg級 第1位 安齋憂輝
 ▼福島県高等学校新人体育大会
 県北予選
 男子個人
 60kg級 第1位 安齋憂輝
 ▼福島県高等学校新人体育大会

予選リーグ
 福島東4―1保原
 福島東2―1福島明成
 福島東5―0福島商
 福島東0―5聖光
 決勝トーナメント
 福島東0―5福島北
 福島東3―2福島工
 個人
 66kg級 第3位 原井汰朗
 60kg級 第3位 安齋憂輝
 ▼福島県高等学校体育大会
 男子
 団体
 1回戦 福島東4―1四倉
 2回戦 福島東0―5光南
 個人
 66kg級 原井 1回戦敗退
 60kg級 安齋 1回戦敗退
 ▼福島県総合体育大会県北地区大会
 少年男子
 先鋒の部
 第1位 久保田智也
 第2位 安齋憂輝
 ▼福島県総合体育大会県大会
 少年男子
 先鋒の部
 久保田智也・安齋憂輝
 ▼福島県高等学校新人体育大会
 県北予選
 男子個人
 60kg級 第1位 安齋憂輝
 ▼福島県高等学校新人体育大会

男子個人
 60kg級 第3位 安齋憂輝
 ▼福島県高校柔道選手権大会
 男子個人
 60kg級 第3位 安齋憂輝
 剣道部
 ▼福島県高等学校体育大会県北地区大会
 男子団体戦
 4位(県大会出場)
 女子団体戦
 6位(県大会出場)
 ※女子は5人制の団体戦に4名で出場。
 男子個人戦
 森辰弘 11位(県大会出場)
 ▼福島県高等学校体育大会
 男子団体戦 ベスト16
 1回戦(対 埼玉工業高校)
 5(8)―0(1)勝
 ※() 外が勝者数 () 内は取得本数
 2回戦(対 若松商業高校)
 4(5)―1(1)勝
 3回戦(対 学法石川高校)
 2(3)―3(5)負
 女子団体戦 ベスト16
 1回戦(対 未来学園高校)
 3(3)―0(0)
 2回戦(対 安積高校)
 0(0)―3(5) 負
 ※安積高校が優勝
 男子個人戦
 森辰弘

1 回戦 (対 喜多方 高校生) 反則勝ち
 2 回戦 (対 安積 高校生) 一本負け 敗退
 ▼福島県総合体育大会県北地区大会
 男子団体戦 予選敗退
 女子団体戦 3位 (県大会出場)
 ※女子は5人制の団体戦に4名で出場。
 男子個人戦 立子山健太 5位 (県大会出場)
 ▼福島県総合体育大会県大会
 女子団体戦
 1 回戦 (対 磐城一 高校) 3(5)―0(1)
 2 回戦 (対 安積 高校) 0(0)―2(3) ベスト16
 男子個人戦 立子山健太
 1 回戦 (対 会津 高生) 1本負け 敗退
 ▼第15回日本海旗争奪高等学校剣道大会(於 山形県酒田市)
 男子団体戦
 1 回戦 (対 伊具 高校(宮城県)) 4(7)―0(0)
 2 回戦 (対 新潟明訓 高校(新潟県)) 0(0)―1(2)
 女子団体戦

1 回戦 (対 仙台三枝 高校(宮城県)) 2(3)―1(2)
 2 回戦 (対 山形市立商業 高校(山形県)) 0(1)―4(6)
 ▼福島県新人体育大会剣道競技 県北地区予選
 男子団体 第4位
 女子団体 第6位
 男子個人戦 井上舜太 第4位
 女子個人戦 齋藤智花 準優勝
 加藤咲月、石川柚希 以上県大会出場
 ▼福島県新人体育大会剣道競技 県大会
 男子団体戦 1 回戦 (対 白河実業 高校) 3(4)―0(0)
 2 回戦 (対 尚志 高校) 3(3)―1(1)
 3 回戦 (対 磐城 高校) 1(1)―2(4) ベスト8
 女子団体戦 1 回戦 (対 湯本 高校) 0(0)―1(2)
 男子個人戦 井上舜太
 1 回戦 (対 尚志 高生) 1本負け敗退
 女子個人戦 齋藤智花

2 回戦 (対 会津学鳳 高生) 2本勝ち
 3 回戦 (対 磐城桜ヶ丘 高生) 2本負け敗退 ベスト16
 加藤咲月
 1 回戦 (対 郡大附属 高生) 1本勝ち
 2 回戦 (対 磐城桜ヶ丘 高生) 1本負け敗退
 石川柚希
 1 回戦 (対 会津 高生) 2本勝ち
 2 回戦 (対 郡大附属 高生) 1本負け敗退
 ハンドボール部
 ▼第69回福島県春季ハンドボール選手権大会(4月20日〜22日)
 2 回戦 聖光学院 高校25―24
 3 回戦 郡山 高校34―10
 準決勝 福島工業 高校24―23
 決勝 学法 石川 高校22―28
 【最終順位】準優勝

▼平成30年度第64回福島県高等学校体育大会ハンドボール競技(6月1日〜4日)
 2 回戦 帝京安積 高校27―15
 3 回戦 いわき総合 高校23―15
 準決勝 福島工業 高校21―23
 【最終順位】第3位
 ▼平成30年度福島県総合体育大会 県北地区大会(6月9日〜11日)
 Bブロックトーナメント
 1 回戦 福島北 高校18―20
 決勝トーナメント
 2 回戦 川俣 高校20―18
 3 回戦 福島北 高校20―17
 準決勝 福島工業 高校14―23
 第三代表決定戦 福島商業 高校22―16
 【最終順位】第3位(第三代表)

▼平成30年度福島県新人体育大会 県北地区大会(10月27日〜29日)
 予選トーナメント
 1 回戦 福島 高校33―16
 2 回戦 福島西 高校22―8
 3 回戦 聖光学院 高校11―20
 決勝トーナメント
 準決勝 福島工業 高校9―15
 3位決定戦 福島商業 高校18―11
 【最終順位】第3位
 ▼平成30年度福島県新人体育大会 県大会(11月16日〜18日)
 2 回戦 郡山 高校16―21(2回戦敗退)
 水泳部
 ▼第64回福島県高等学校体育大会 県北地区大会(森合 市民プール)
 男子
 100m背泳ぎ 3位 岡部理玖
 200m背泳ぎ 2位 岡部理玖
 100m平泳ぎ 3位 齋藤優斗
 100mバタフライ 5位 福島魁人
 200m個人メドレー 3位 齋藤優斗
 400mフリーリレー 6位 齋藤・福島・菅谷・岡部
 400mメドレーリレー 5位 岡部・菅谷・福島・志賀
 女子
 100m背泳ぎ 6位 永田愛
 100m平泳ぎ 6位 荒明颯希
 200m平泳ぎ 4位 荒明颯希
 ▼第64回福島県高等学校体育大会 会 郡山しんきん開成山プール
 男子
 200m背泳ぎ 7位 岡部理玖
 100m平泳ぎ 9位 齋藤優斗
 ▼第73回東北水泳大会(山形市総合スポーツセンター屋外プール)
 男子
 200m背泳ぎ 出場 岡部理玖
 ▼第71回福島県総合体育大会水泳(競泳) 競技大会(いわき

市民プール

男子

50 m背泳ぎ2位 岡部理秋

▼第53回福島県高等学校新人体育大会水泳競技大会(郡山しんさん開成山プール)

男子

100 m平泳ぎ3位 齋藤優斗

東北大会出場権獲得

200 m平泳ぎ4位 齋藤優斗

東北大会出場権獲得

▼第26回東北高等学校新人水泳競技大会(盛岡市立総合プール)

男子

100 m平泳ぎ出場 齋藤優斗

200 m平泳ぎ出場 齋藤優斗

山岳部

▼福島県高等学校体育大会登山大会(吾妻連峰)

優秀パーティー(福島東A)

パーティー(福島東B)

テイ(↓全国大会出場)

▼全国高校総合体育大会登山大会(三重インターハイ) 33位

ソフトボール部

▼第40回福島県高等学校男子春季選抜ソフトボール競技

1回戦 福島東11-3安積黎明

(5回コールド)

準決勝 福島東9-1郡山北工業

決勝 福島東11-2

(5回コールド)

【2年連続4回目の優勝】

▼第67回福島県高等学校女子春季選抜ソフトボール競技

1回戦

福島東 北合同2-9磐城農業

▼第64回福島県高等学校体育大会ソフトボール競技

男子

予選リーグ

福島東19-0福島

(5回コールド)

福島東0-3郡山北工業

決勝トーナメント

準決勝 福島東2-3須賀川

第3位

女子

1回戦

福島東1-10安積黎明

(5回コールド)

▼第71回福島県総合体育大会ソフトボール競技

男子

1回戦 福島東8-12安積黎明

▼平成30年度福島県高等学校新人体育大会ソフトボール競技

男子

予選リーグ

福島東8-1福島

(5回コールド)

福島東4-0郡山北工

決勝トーナメント

準決勝 4-3安積黎明

決勝 10-11郡山北工

(延長10回タイブレーカー)

女子

1回戦

福島東合同4-6桜が丘総合磐城

▼第13回東北高等学校男子ソフトボール選抜大会

1回戦

福島東0-11白石工業

(宮城県)

バドミントン部

▼福島県高等学校体育大会県北地区予選

男子

団体戦 第5位 県大会出場

個人戦ダブルス

斎藤・青柳組 第5位

個人戦シングルス

渡辺郁也 第17位

以上県大会出場

女子

個人戦ダブルス

佐藤・菅野組 第17位

県大会出場

▼福島県高等学校体育大会

男子

団体戦

1回戦 福島東3-1相馬東

2回戦 福島東0-3帝京安積

個人戦ダブルス

斎藤・青柳組 2回戦敗退

個人戦シングルス

渡辺郁也 初戦敗退

女子

個人戦ダブルス

佐藤・菅野組 初戦敗退

▼福島県総合体育大会地区大会

出場

▼福島県高等学校新人体育大会

県北地区予選

男子

団体戦 第5位 県大会出場

個人戦ダブルス

松本・畠山組 第9位

佐々木・佐藤組 第17位

県大会出場

個人戦シングルス

佐々木雅也 第9位

県大会出場

女子

個人戦ダブルス

菅野・服部組 第9位

県大会出場

個人戦シングルス

服部愛美 第9位

県大会出場

▼福島県高等学校新人体育大会

男子

団体戦

1回戦 福島東0-3帝京安積

個人戦ダブルス

松本・畠山組 初戦敗退

佐々木・佐藤組 3回戦進出

個人戦シングルス

佐々木雅也 初戦敗退

女子

個人戦ダブルス

菅野・服部組 3回戦進出

個人戦シングルス

服部愛美 初戦敗退

弓道部

▼平成30年度福島県春季弓道大会(4月14日郡山市開成山弓道場)

女子団体 第2位

加藤雅、石橋礼、佐藤小雪、佐藤あづさ、宮木結香、鈴木莉央、安田采加

女子個人

第1位 加藤雅

▼平成30年度高校総体県北地区大会(5月12日-13日福島明成高校)

男子団体 第3位

渡邊英哉、椿谷久翔、菅野睦、山内和杜、佐々木稜、澁谷歩夢、阿部紘大

女子団体 第3位

加藤雅、佐藤小雪、佐藤あづさ、岩井わか菜、宮木結香、安田采加、石橋礼

男子個人

第1位 山内和杜

県大会 小山翔人、加納佳祐

女子個人

第2位 佐藤小雪

第3位 佐藤あづさ

県大会 加藤雅、安田采加

▼第64回福島県高校総体県大会(6月2日-4日福島明成高校山弓道場)

男子団体 第7位

渡邊英哉、椿谷久翔、成田亮斗、山内和杜、佐々木稜、

阿部混生、澁谷歩夢
女子団体 第4位

加藤雅、佐藤小雪、佐藤あづさ、安田采加、宮木結香、鈴木莉央、岩井わか菜

▼第71回福島県総合体育大会県北地区予選会(6月16日～17日福島明成高校弓道場)

男子団体 第4位
鈴木正春、加納佳祐、佐々木稜

男子個人 第5位 佐々木稜
射道優秀 佐々木稜

▼第71回福島県総合体育大会(6月30日～7月1日郡山市開成山弓道場)

男子団体遠的の部 第3位
鈴木正春、加納佳祐 成田亮斗、佐々木稜

男子個人遠的の部 第2位 成田亮斗

▼平成30年度高校新人大会県北地区大会(9月22日～23日福島明成高校弓道場)

男子個人 第2位 佐々木稜
女子個人 第1位 岩井わか菜

射道優秀 佐々木稜、岩井わか菜
男子団体 第4位

渡邊匠瑛、成田亮斗、渡邊英哉、金戸怜優、佐々木稜、

鈴木正春、半澤翔太
女子団体 第5位

岩井わか菜、千葉絳里、加藤凜、山田奈々、佐藤芽維、梅津朱花、横山幸穂

▼平成30年度福島県高校新人大会(10月12日～14日いわき市弓道場)

男子団体 第1位
渡邊匠瑛、成田亮斗、渡邊英哉、半澤翔太、佐々木稜、鈴木正春、金戸怜優、東日本弓道大会出場権獲得

▼第37回全国高校選抜弓道大会福島県大会(10月28日須賀川市武道館)

男子団体 第2位
渡邊匠瑛、渡邊英哉、佐々木稜、成田亮斗、東北選抜弓道大会出場権獲得

▼第37回東北高校選抜弓道大会(11月24日～25日青森県武道館弓道場)

男子団体 第3位
渡邊匠瑛、渡邊英哉、佐々木稜、成田亮斗

ダンス部
▼第69回全国植樹祭メインアトラクション参加

主役 高村光太郎、安藤優希

▼第37回福島県高等学校総合文化祭活動優秀校公演参加

▼第11回日本高校ダンス部選手権バトラーナメント東日本大会
ベスト8入賞
穂積里紀、五百川朝陽、菅野優佳

文化部

合唱部

▼県北地区音楽祭参加(5月福島市音楽堂)

▼県音楽学習発表会参加(6月福島市音楽堂)

▼第16回定期演奏会(8月福島市音楽堂)

▼NHK全国学校音楽コンクール優秀賞(8月 福島市音楽堂)

▼福島県合唱コンクール金賞(8月 會津風雅堂)

▼全日本合唱コンクール東北支部大会銅賞(9月 多賀城市文化センター)

▼福島県声楽アンサンブルコンテスト銀賞(12月 矢吹町文化センター)

▼※(今後)郡山・郡山東・福島東・日大東北5校ジョイントコンサート(3月)

吹奏楽部

▼第35回定期演奏会開催(5月とうほう・みんなの文化センター)

▼県北地区音楽祭参加(5月福島市音楽堂)

▼県音楽学習発表会参加(6月とうほう・みんなの文化センター)

▼吹奏楽コンクール県北大会金賞 支部代表(7月 とうほう・みんなの文化センター)

▼吹奏楽コンクール県大会銀賞(7月 いわき文化芸術交流館アリオス)

▼福島県アンサンブルコンテスト県北大会

▼サックス六重奏(金賞 代表)、クラリネット三重奏(金賞 代表)、フルート四重奏(金賞 代表)、打楽器六重奏(銀賞)(12月 とうほう・みんなの文化センター)

▼※(今後)福島県アンサンブルコンテスト県大会(1月 いわき文化芸術交流館アリオス)

美術部

▼第72回福島県総合美術展覧会青少年美術奨励賞・県教育長賞 齋藤菜緒、佐藤凜

入選 鳴原優奈、武田万由子、國嶋菜月、佐藤澄門

▼福島県防犯協会連合会地域安全運動・暴力追放運動ポスター

高校生・一般の部 優秀 小山彩音

▼第42回全国高等学校総合文化祭(長野大会) 文化連盟賞 齋藤菜緒、佐藤凜

▼第13回西会津国際芸術村公募展2018 青少年の部 西会津町長賞 國嶋菜月 福島民友新聞社賞 鳴原優奈

▼第52回福島市民美術展覧会 青少年奨励賞 鳴原優奈

▼第86回福島県美術協会展 高校生優賞 鈴木あやか 入選 小山彩音、藤田隆太郎

▼福島県高校生交通安全CMコンテスト2018 銅賞 美術部2年

書道部

▼第63回福島県たなばた展 個人賞 たなばた賞 3年 佐藤真由香 1年 高橋愛実 銀河賞 2年 石川なるみ 団体賞 優秀学校賞

▼第53回福島県高等学校書道展 半紙の部 準大賞 2年 石川なるみ 奨励賞 2年 菅野晴奈 1年 朝倉ちひろ 1年 高橋由華 1年 吉田陽菜子

条幅の部

- 奨励賞 2年 石川なるみ
- 2年 菅野晴奈
- 1年 高橋愛実
- 1年 佐藤ひなた
- 1年 本多未奈

科学部

- ▼第37回福島県高等学校総合文化祭自然科学専門部第31回生徒理科研究発表会
- 生物部門
- 優秀賞

「光条件の変化がネズミモチの陽葉と陰葉の気孔開度に与える影響について」

放送委員会

- ▼第65回NHK杯高校放送コンテスト
- 県北相双大会
- アナウンス 塚本千鈴
- 最優秀 県大会出場
- 朗読 阿蘇あかり
- 優秀2席 県大会出場
- ラジオドキュメント
- 最優秀 県大会出場
- 創作ラジオドラマ
- 最優秀 県大会出場
- 県大会
- アナウンス 塚本千鈴
- 優秀4席 全国大会進出
- 創作ラジオ
- 最優秀 全国大会進出
- 全国大会
- アナウンス、創作ラジオ

上位進出ならず

- ▼第23回高校放送新人コンテスト(県大会)
- アナウンス 塚本千鈴
- 優秀(2位) 東北大会進出、全国総文祭出場権獲得
- 朗読 阿蘇あかり
- 佳作(8位) 東北大会進出



平成30年度(37期生)
部活動を終えて

生徒会

私は東高校で生徒会活動を通して仲間と協力しコミュニケーションを取り続ける事の大切さを学びました。生徒会ではスポーツ大会や文化祭などの学校行事の運営を行っています。その準備の過程では生徒会で何度も打ち合わせをやり、数週間前から出てきた問題点に対して、私は一人で解決した方が早くて楽なものではないかと思っていました。しかし、当時の生徒会長が周りの人と相談しながら知恵を出し合う姿を見て一人で言うより皆で活動した方が自分では思いつかなかったアイデアが浮かび負担が減ることに気がつきました。これに気がついたらおかげで私が生徒会長になった時、スポーツ大会や文化祭を仲間とともに成功させることができました。この事から今後の生活でもコミュニケーションを大切にして生活していきたいと思います。

(丹治太一)

弓道部

弓道は技術はもちろん必要ですが、それ以上に的中に影響を与えるのは精神的な面であると感じます。選手は時に不調になります。不調の原因は射の乱れです。その射の乱れを正しい射に近づけてくださるのが先生でした。先生の言葉を聞いて教わったことを実行すればすぐ直ってしまうことが多かったです。先生のアドバイスには射についての話だけでなく、気持ちの話も多々ありました。このように不調や好調をくり返すうちに不調の波は気持ちの波だということに気づきました。不調の直接的な原因は射の乱れですが、不調そのものを引き起こす元凶は気の乱れです。たまたま的中しないことが続いても気持ちを強く持つことはとても大切であると感じました。弓道に限らず気持ちから勝つことは重要です。弓道部の活動を通して、主に気持ちのコントロールの仕方について学びました。

(椿谷久翔)

陸上競技部

部活動は東高のモットーである「文武両道」の「武」に該当する項目であり、私も東高生と

して一生懸命取り組んできました。そんな部活動で学んだことを簡単ではありますが書かせていただきます。

陸上の練習は同じ動作の繰り返しが多く、最初のうちはできないことができるようにという達成感がありました。次第に達成感もなくなり、新しいことに取り組みたいと感じることがありました。そんな時に上位の人と練習する機会があり、当たり前前のを当たり前前にできるかどうか、上位の人との差だということを学びました。土台が安定することによってパフォーマンスがより向上していくということでした。

剣道部

基礎を何度も繰り返すことで、その動作が身体に染み付き、当たり前に行動できるようになるので、今後の人生で、基礎を怠ることなく生活していきたいと思えます。

(濱尾春樹)

私は部活動を通して大きく二つのことを学びました。まず一つ目は仲間と努力することの楽しさです。福島東高の剣道場は比較的狭くなかなか満足いく環境で稽古するのは難しかったのですが、上位大会への進出、

入賞を目標に仲間と限られた環境でどうすれば上達できるかを話し合ったり意見を出し合いました。それでもなかなか勝てなかつたり意見の食い違いが発生したりと大変なことはたくさんありましたがその分結果ができた時の仲間との喜びも大きかったです。

二つ目は責任感です。一年間部長として活動して感じたのは人の上に立つ人間が活動に真剣に取り組めば周りの人間も自ずとついて来るし、逆もまた然りだということ。なので上の立場の人間は責任のある行動をとらなければならないということとを学びました。

三年間の部活動で学んだことを将来に生かしていきたいです。

(立子山健太)

水泳部

私は部活動を通して努力の大切さを学びました。私の部活動は個人競技であるうえに、活動できる期間は主に夏季のプールの使えるときです。しかし、少しでも多くの時間を泳いで練習するために、ほぼ毎日、屋内の公共施設のプールに通い活動することにしました。以前は週に二回ほどでしたが、平日は毎日、

休日は各々のスイミングスクールで活動するようになり、大会を重ねる度に自己記録を更新することができました。毎日通い二時間近く泳ぐことは予想以上に体力を消耗し、始めのうちは憂鬱でしたが、部員と多くの時間を共有し部活動に励んだことは高校三年間の良い思い出であり、努力の大切さを身に染みて感じました。またこの部活動によって得た経験は現在励んでいる受験勉強やその後の生活にとっても役立つものであるということとを強く感じていきます。

(志賀柚人)

ハンドボール部

今年の三年生は選手が十八人、マネージャーが三人と例年よりも人数が多く、十六枠のユニフォームメンバーに入るために全員が必死になって練習してきました。その中で考えがぶつかることもありましたが、それがチームの成長につながったと思います。結果としては、新人戦で東北大会に出場し、インターハイで県大会三位になることができました。これらは全員が努力を続け、成長した証です。夏の二部練や冬の走り込み、筋力トレーニングなどたくさん

つらい練習を取り入れてきました。その中でも全員が意識を高く持ち、高め合うことで、楽しく活発に部活動に取り組むことができました。

最後に、今まで指導して下さいました先生方やOB・OGの方々、支えてくれた両親への感謝を忘れずに、これから飛躍していきけるよう頑張っていきたいと思えます。

(長尾修平)

男子バレーボール部

私が部活動を通して得たものは三つあります。

一つ目は責任についてです。バレーボールは団体の競技なので、一人がミスをするチームのみんなに影響を与えてしまいます。ですので、自分の行動に対する責任感をもつようになりました。

二つ目は判断力です。チームの雰囲気や、前の試合の状況などから自分たちには何が足りていないかを判断し、そこからその足りないものを補うためにどのような練習をするかなどそのようなことを考える力がつきました。

三つ目は統率力です。部長としてチームをまとめるために、自ら率先して行動したり、ふざ

けていたら注意したりと自分なりにチームをまとめる努力をしてきました。

私は部活動を通して得たものをこれからの人生に生かしていきたいと思えます。部活動をやっている本当によかったと思っています。

(佐藤知也)

女子バレーボール部

私が部活動を通して学んだことは、「今一番大事なことは何か」を考えて実行することです。

高校生となり以前よりも根拠をもってプレーするようになりました。また部長としてチームの雰囲気はどうか、声は出ているか、狙われている場所はどこなのかなど、状況に合わせてチームに指示し、自分たちが得点できるようにしました。また、周囲に伝わるように行動することも学びました。「東のプレーを見てどう思ってもらいたいのか」について全員で話し合い、それを意識して練習しました。周囲に伝えることは難しいと感じましたが、継続・意識して行動することで伝えることができるようになりました。

今後はより一層自分で考えて判断し、行動する場面が増えてくると思えます。女子バレーボー

ル部で学んだことをさらに追求して、周囲に良い影響を与えることができる人として活躍していきたいです。

(長谷川茜)

卓球部

私が東高校の部活動で学んだことは、物事に対しての向き合い方です。

私は三年間の間で、試合に負けてしまうことや、苦しい練習などの辛い場面を何度も経験しました。そういった経験をすることで、一つ一つの物事をどのようにつまみ、どう次の自分に生かしていくのか考えることが重要であるということ、何事にも熱心に取り組む先輩方の姿勢から学びました。ただ試合に負けて悔しかったと思うのではなく、負けたことは自分に足りなかったものが分かるチャンスであり、自分が変われる一つの分岐点であるとプラスに考えるようになりました。

このような物事の捉え方は、部活動だけに限らずあらゆる生活においても重要だと思います。一つ一つが自分のためになるという意識を忘れずに、これから先歩んでいきたいと思えます。

(鈴木 藍)

ソフトボール部

私は部活動を通して社会に出
てから大事なことを学びました。
ソフト部は遠征が多いのです
がその中で、技術向上はもちろ
ん、上下関係など基本的なこと
をしっかり学びました。

また、先生方は生徒同士で話
し合った練習メニューを取り入
れてくださったりと、毎日の練習
の内容を私達のやりたいことを
聞いてから決めてくださった
し、生徒の意見を尊重してくれ
ました。そのような接し方のお
かげで、人数は少なかつたので
すが、一人一人が高い意識を持
って練習に取り組むことができ
たと思います。また、先を見据
えて今やるべきことを考えるこ
との難しさと、その目標が達成
できたときの達成感を学びまし
た。ありがとうございました。
（倉兼優希）

柔道部

「自他共栄」、相手を助け、互
いに信頼し、共に栄える。これ
は柔道の創始者、嘉納治五郎先
生の格言であります。私はこの

教えの下、三年間ひたすら柔道
に打ち込んできました。当初は
ついていくだけでも精一杯で、
人数も少なく、中々思うように
もいかない時もあり、つらい時
期もたくさんありましたが、最
後まで続けることができました。
これも全て自分を支えてくれた
先生方や部員の皆さんの「自他
共栄」があったからこそだと思
います。満足いく結果は残せま
せんでしたが、諦めず練習に励
んだ日々は何にも代え難い経験
となり、これからの人生の糧と
なりました。
（原井汰朗）

男子バドミントン部

自分は未来のことを考えるの
が苦手だ。行き当たりばったり
のことが殆どで、この部活に入
たのも中学の部活、団体競技で
ない個人競技をやったかっとな
いう気まぐれだ。実際、他の部
活でもよかつたのかもしれない。

ただ、わずか五グラムの羽を追
い続けた約二年間の日々はとて
も濃密なものだった。最初の太
会で皆でヘコんだり、合宿で一

日中汗を流したり、喧嘩をして
その後物凄く反省したり、最後
の大会で県大会出場を決め皆で
喜び合ったり…。顧みると堰を
切ったように思い出が蘇る。自
分はいつも仲間と共に笑い、競
い合い、戦った。本当の意味の
個人戦なんてものは無いのかも
しれない。

自分は未来のことを考えるの
が苦手だ。多分、これからもそ
うだと思う。ただ、十年、二十
年後も「高校の部活はよかつた」
と言っているのは間違いない。
（齋藤 嶺）

女子バドミントン部

私が部活動を通して学んだこ
とは努力と感謝です。

私達の代の女子部員は四人と
少なくそのことで多くの大変な
ことがありました。しかし、そ
れを生かして日々の練習からお
互いのことをよく見てアドバイ
スを言い合いました。最後の高
体連ではみんな今までで一番い
い成績だったので今まで努力を
してきてよかつたと感じました。
また、課外がたくさんあるな
かご指導して下さった顧問の
先生方、未熟な私達を優しく時
には厳しく言葉をかけてくださ
った先輩方、一緒に練習をして

れた同級生の男子や後輩、そし
てめいっばい部活動をさせて
くれた家族など、たくさんの方
々にお世話になりました。この
感謝を忘れずに、得た経験を
生かしてこれからを生活してい
きたいです。
（佐藤希美）

男子テニス部

僕は先輩方から部長という責
任ある役割を任せられ、至らな
い点ばかりでしたが、なんとか最
後までやり遂げました。
部長として活動してみて、上
に立つということの難しさ、大
切さを感じました。テニス部は
部員が多く、性格や考え方も人
それぞれで、その中で部員を良
い方へ導いていこうとすること
は、予想以上に大変でした。自
分の行動次第で部活動も変わ
るので、責任ある行動を心が
けました。

また、僕達がどれだけの人に
支えられているかにも気づかさ
れました。先生方や保護者、そ
して同じ部活の仲間達。僕一人
で抱え込んでいたことも皆で共
有し合っ助けられることもあ
り、互いに助け合う心を学びま
した。
今思えばあつという間の部活
動で、楽しいことも苦しいこと

女子テニス部

も全部含めて、充実したテニス
部だったと思います。
（渡辺大夢）

三年間の部活動を通して、一
人ひとりが精神面を強くするこ
とができました。出来た、出来
ないに関係なく、どんなときで
も「挑戦」する気持ちを強く持
つことを心がけてきました。自
分のプレースタイルも崩さず自
信を持って最後まで貫き通しま
した。この日頃の意識から、失
敗に恐れられないメンタルが身につ
いたと思います。そして、チー
ムで目標を達成する喜びを味わ
い、団結力の大切さも改めて感
じることができました。

私たちは三年間顧問の先生が
変わってしまい、不安もたくさ
んありましたが、どの先生も個
性豊かな私たちを受け入れてく
れたことに本当に感謝していま
す。また三年間部活動ができた
のは、保護者の方の支えがあつ
たからだと思えます。私はこの
三年間の部活動で、最高の仲間
に出会えたことは誇りであり、
一生の思い出です。
（野地紅美子）

サッカー部

私の二年半の高校サッカーが終わり感じることは「敗北」です。目標に掲げていた「全国で勝つチーム」はおろか自分にすら勝つことができませんでした。何かあるたびに今度こそ変わろう、そう言い続け二年半はあっという間に過ぎてしまいました。しかし、その敗北から多くを学びました。一つに何かを成そうとする時に壁にぶつかったり、目標との大きな距離を感じても強い想いを持って挑戦し続けなければ何も成し遂げることはできないということでした。他にもこの二年半で学んだことは書き尽くせないほどたくさんあり、伝統ある東高サッカー部でプレーできたことは誇りであり、財産です。私のこれからの人生に必ずプラスにしていきたいと思えます。

(高野将伍)

野球部

顔を上げて我ら開かれた道をゆく。入学時から歌い続けて

きた校歌の歌詞がしみじみと胸に刺さるようになりました。僕たち野球部はこの校歌を勝って歌いたいと願い日々切磋琢磨し練習に励んできました。残念ながら最後の夏の大会、その願いは叶えることができませんでした。その時はとても悔しさで一杯でしたが、負けたことを真摯に受け止め自分たちに何が足りなかったのか反省する事で、前を向き自分の道を歩み始めることができました。僕らはこの三年間を絶対忘れることはありません。

(安部響紀)

男子バスケットボール部

私が部活動で学んだことは正しい努力の重要性です。私はバスケットボール部の一員として日々練習に励んでいました。真面目に取り組んでいましたが、

なかなかレギュラーに選ばれることができませんでした。もつと真剣に取り組まなければ自主練習をしても思うような成果が出ませんでした。しかし、自分の弱みについてしっかり分析をして、改善する方法を考えるようになってから上達のスピードが驚くほど早まったように思えました。その結果、少しずつ試合に出れるようになっていきました。

この経験から、努力は量だけでなく正しい方法を取らなければ結果が出ないということが分かりました。これからの生活で乗り越えないといけないことがたくさんあると思います。そのときは何を改善すればよいのか考えて努力を重ねていきたいです。

(佐藤豪人)

女子バスケットボール部

私は、「文武両道」という校風のもとで三年間部活動と勉強に励んできました。部活動において学んだことは、仲間の大切さです。入部した頃は、ついていくのに必死でした。苦しい時は励ましあって、時には意見の違いで衝突したりしながら、最後までやり遂げることができました。苦しい練習がほとんど

でつらい思いもたくさんしたけれど、それを忘れさせてくれるくらい楽しい思い出ができたのは仲間のおかげです。また、少しでも上手くなるように、毎日熱心に指導して下さった先生にはとても感謝しています。先生のおかげでさらにバスケットボールが好きになりました。

最後に、これから生きていくうえで、仲間を大切にしていこう。度私を周りを支えてあげられるような人になりたいと思えます。

(大河内奈々)

山岳部

山岳部では活動のほとんどが初めて体験することなので学んだことはとても多いです。

計画書などをつくる際には完成までの見直しを持つこと、山でいっようなトラブルが起こってもいいように様々なことを想定すること、ミスは正直に報告すること、そして最後は自分との勝負だということなどです。これらは全てこの先の人生でもとても役に立つことだと思います。

ですが学んだことのなかでも大切だと思うことは人とのコミュニケーションの大切さです。山岳部は大体四人で一パーティー

を作って行動するため、メンバーとの助け合いがとても重要です。その為にはコミュニケーションを上手くとり、互いに信頼できる仲をつくっていかねばなりません。

山岳部で学んだことを生かし、充実した人生を送っていきたいです。

(葵沼寛斗)

ダンス部

今年度は、全国植樹祭メインアトラクション参加という貴重な経験をしました。このことは、目標としていた発表会の成功に繋がっていったと思います。

発表会へは、目標を掲げてから一年間、毎日コツコツと練習に励みました。成功したことがや楽しいことがありましたが、悩みや辛いことが積み重なっていきることが多々ありました。そんなとき、仲間が力を返してくれたおかげで、一歩ずつ前に進み、本番を迎えることができました。最後は、部員全員心を合わせた最高のステージで、迫力のあるダンスをすることができました。私は部活動を通して、目標に向かって努力すること、目標を達成した喜びを学ぶことができました。また、一人よりも大人数で協力すれば、「すごい

もの」ができるということを実感しました。これからもダンス部は、ストリートダンスという表現ツールを使って、たくさんの人にかっこよさや奥深さを披露していくために頑張ります。

(安藤優希)

合唱部

私は部活動を通して、人との繋がりの大切さについて学びました。

普段の練習では、「歌う人も聴く人も幸せになる音楽を作る」を部の目標とし、顧問の先生方のご指導のもと、先輩後輩の枠を越えて部員どうしで意見を出し合いながら、皆で一つの音楽を作り上げていくことができました。

コンクールの時には、他校の方々と同じ全国を目指すライバルとして切磋琢磨し合い、技術を高め合うことができました。また、合同コンサートの時には聴く人も歌う人も笑顔になるようなステージを一緒に作ることができました。

私が部活で悩んでいた時、いつでも話を聞いてくれ、励まし支えてくれた家族のお陰で、三年間部活動に打ち込むことができました。

合唱は一人ではできないものではなく、沢山の人の繋がりがあつたからこそ、一つの音楽を作ることができたと思えました。

(根本陽奈)

科学部

私が部活動で学んだことは仕事を頼むことです。部長として部活を運営すると全体を見て動くことが大切だと分かりますが、

特に科学部は一つの大会で複数の分野で競うことがあるため、それぞれの細かい所まで手が回らないことがあります。このときに部員に任せることになるのですが、誰に何をどこまで任せれば良いのか判断する力がついたらよいと感じます。また部長の仕事は調整役だと考えています。部の中と顧問の先生方や生徒会、外部の方との連絡をとりもつような仕事です。このため部の細かい所にまで手が回らないことがあるのですが、副部长や他の部員に任せてやってもらい部長としての仕事をやりきりました。

科学部で部長として活動して多くのことを学びましたが、人に正しく仕事を任せることの重要性を学び、その経験を得ることができたのは貴重な糧になりました。

(関根将矢)

書道部

三十七・三十八・三十九期生全員で活動したのは、文化祭書道パフォーマンスでした。「部員全員でやる」と決めてから、「二人一人役割を担い誰か一人でも欠けたら成立しないようなパフォーマンスにする」という目標を掲げ、毎日活動しました。全員の意見がなかなか一致せず、何度も話し合いを重ねました。

特に三年生は夏休みの課外授業・模試で一・二年生との合同練習時間が取れず、苦労しました。限られた時間のなかで大きな用紙で練習しては改善点はなにか、反省会をし、また練習しては反省会……。の繰り返しでした。その中で、学年の壁を超えて部員の仲がさらに深まりました。団結して東高らしいパフォーマンスをやりきることができ、とても良い経験になりました。また、これまで活動を支えてくださった方々に感謝の気持ちを忘れずに、書道の活動を通して学んだことを活かしたいと思います。

(阿部絵梨華)

美術部

私は、部活動を通して自分の頭の中のイメージを絵に表現す

ることの難しさと同時に楽しさを知りました。

私は、絵が好きで中学生の時に美術部だったこともあり、高校でも美術部に入りました。油絵は敷居の高いイメージがありましたが、一年生の時初めて油絵を描いた時は、勝手がわからず拙い表現しかできませんでしたが、油絵を描く楽しさを知りました。二作目では、一作目の反省をもとに自分の表現したい内容と筆の使い方に気をつけるようになりました。私以外の同級生がコンクールの賞を取っている中で若干の劣等感を感じることもありましたが、二年生で初めて賞をいただいた時は、とてもうれしく描き続けてきてよかったと思えました。それが励みになって私は小学生の時夢見ていた絵を描く仕事に就くために今、美大を目指しています。

美術部は、個別に作品を制作することが多いのですが、最近ではCM製作やワークショップなどみんなで話し合いをする活動も増えてきました。部員は少ないですが、部員同士の仲は良好で日々互いに影響し合いながら活動しています。部活動で得た経験を生かして、目標に向かってがんばっていきたいと思います。

(武田万由子)

演劇部

「あ、キャストで。」しまった、私は後悔した。元々裏方志望で入部した私は、話に流されて舞台に立つ方を選んでしまったのだった。

不安な気持ちのまま発表会の練習が始まった。感情を普段より表に出すことが恥ずかしく、どうしても控えめな演技になってしまふ。一方で、先輩方は堂々とした完璧な演技に満足することなく、より良い舞台を作る為に挑戦し続けていた。その姿勢を見て私も自分の演技に挑戦してみよう、と決心して練習を始めた。すると演技に恥ずかしさは消え、工夫をして演じることが楽しくなってきた。

発表会は成功し、忘れられない達成感を味わうことができた。その後、脚本を書くことにも挑戦し夢を叶え、あの時の後悔とは真逆の充実した三年間を送った。

人生という舞台はまだまだ続いていく。その幕を下ろす時まで、私は挑戦し続けるだろう。

(村上佳奈恵)

吹奏楽部

私が部活動を通して学んだこ

とは、私たちの活動は、たくさんの方々の支えによって成り立っているということです。特に吹奏楽部は多くの方々の支えがなければ、成り立たない部活動だと思っています。毎日の練習のために、放課後は一学年の教室をすべて貸していただいています。毎年開かれる定期演奏会には、約千人の方が来場し、保護者の方々に限らず、地域の方々も私たちの演奏を聴きに来て下さいます。定期演奏会やコンクールの際には、保護者会をはじめとする保護者の方々にたくさん手助けしていただきます。他にもたくさんありますが、ここには書ききれません。

最後になりますが、諸先生方、練習場所を提供して下さい。一年の皆さん、先輩方、保護者の皆様、顧問の先生方、そして、吹奏楽部の活動を支援して下さい。すべての方々に感謝申し上げます。
(鈴木 京)

写真部

写真部では日々の生活を通してそれぞれが技術の向上に向けて活動してきました。

中学校にはなかった写真部で初めて作品を作るという意識をもって被写体に向きあい、カメ

ラを使用しました。日常の風景や学校行事などで自主的にカメラを持ち出し思い描く絵が撮れるように様々な工夫をし、納得がいく作品になるまで何度も挑戦しました。

また、毎年七月に行われる県北地区の高校写真部の講習会に積極的に参加し、普段では撮れない場所での撮影会や写真家の方が講師となり、撮影時のテクニックなどの講習を受け、それまで持っていた疑問点を解決することができ、作品造りのステップアップのコツをつかむことが出来ました。

このかけがえのない高校生活の記録を取めた写真達は一つとして同じものはない大切な思い出となるだろうと思います。
(菅野 颯)

英語部

私は英語部の活動を通して英語の知識やコミュニケーション能力の向上だけでなく、日本とは異なった文化に触れ、実際に体験することで、外国の人と関わる機会が増えていくと思われ、これからの生活に役立つことを学びました。

また、ALTの先生と英語で会話をしながらさまざまな活動

をする事で、普段の生活とは違ったコミュニケーションの取り方を身に付けることができました。

そして、先輩や後輩とも話しやすい雰囲気を作ることができ、気軽に楽しく活動ができたので、部員同士の仲も深まりました。活動をするたびに、少しずつでも成長を感じることができました。英語で自分の考えや意見を伝えることの楽しさをこれらの英語部の活動でも、感じて欲しいです。

これまで部活動でお世話になった先生方には、とても感謝しています。ありがとうございました。
(橋本風紗)

放送委員会

私が部活動を通して学んだことと一番大きいのは、仲間と協力することの大切さです。私たちが制作する番組は、構成を考える人、取材をする人、録音・録音する人収録されたものを編集する人など多くの人が関わっており、一人では完成しません。それぞれの人が得意なことを生かして作りあげていきました。

また構成や編集で行き詰まった時には、皆の意見を聞いたり、先生に助言をいただいたりしま

した。どのようにすればよりよい番組になるのかを「皆」で考えることが大切なことだと思えます。私たちが協力して作りあげた番組は、決して完璧ではありませんが、今できる最高の作品だったと私は思います。私一人では絶対にできなかったことを、皆で協力してやり遂げたという事は、私にとって、仲間と協力することの大切さを学ぶ良い機会であったと思います。
(中村春花)

応援委員会

私が二年半続けてきた応援活動から学んだこと、それは、協力することの大切さです。私が入団した当初は、前団長を筆頭に、常に全力で、選手達のためにできることを、先輩方や団員と相談し、活動してきました。

しかし、先輩方が卒業された後は団員の人数が四人となってしまう、自分達ではできないことも多々ありました。けれども、少人数でも選手の方になれる応援をするにはどうしたらよいか考えたり、顧問の先生方をはじめとする多くの方々に協力してもらったことで、最後まで、自分の全力を出し切る応援ができたと思います。

このような、人と人との繋がりがとても大事だということに気づき、いつでも全力で応援に臨むことができた時間は、とても印象深く、今後の将来にも生かせるものだと思います。今までの本当にありがとうございました。
(遠藤榛人)

平成30年度 教育実習生 (同窓生のみ)

氏名	実習教科	期生	氏名	実習教科	期生
渡邊 皆実	数 学	33期	安 齋 龍 登	物 理	32期
穴 戸 奈 緒	日 本 史	34期	寺 島 紀 瑛	物 理	33期
伊 藤 亜 光	音 楽	33期	鈴 木 雄 太	日 本 史	31期
唯 木 翔	日 本 史	33期	菅 野 響	保 健 体 育	34期
石 幡 健 太	化 学	31期	菅 野 蓮	保 健 体 育	33期
鈴 木 亮 将	国 語	33期	大 内 美 乃 理	美 術	33期
末 永 真 由	保 健 体 育	33期	角 田 詩 織	国 語	33期
藤 野 祐 希	保 健 体 育	33期	鈴 木 大 介	物 理	33期

福島東高校の卒業生から学び

「すべては東高から始まった」

画家 齋 正機(二期生)



(僕の絵描きの人生はこの絵から始まったんだなあ)

久しぶりに物置から埃まみれになった高校時代の絵を取り出してきた。「Mの孤独」と名付けられた深緑の暗い絵、トランプを持った自画像が静物とともに佇んでいる。両親が見てがっかりするほど暗い絵、なぜか福島県総合美術展で賞をとってしまふ。運命のいたずらとは思議なもので、僕の絵描き人生の笛が吹かれたのだ。

今春、三月二十七日から、とうほう・みんなの文化センターで展覧会が始まる。齋正機の世界展「ふくしまものがたり」(福島民報社主催)は百点以上の過去作品で展示される展覧会、美術部で描いたこの絵の展示から始まるのである。

(僕はうまくなかったなあもちろん子供の頃から絵は好きだった。小学校時から少しは評価されていたし、上手と言われていたこともあった。それでも本格的に絵をやるうと思つたのはやはり東高に入ってから。それも恩師小原先生と出会ってからである。

美術の小原先生はとても変わった先生だった。常識に囚われない、いつでも僕の心に直接話しかける先生だった。「うーん、お前は…何かに囚われているんだなあ。だから絵になってないんです。」

僕は苦勞した。高校時代までぬくぬくと生きてきた分、大学に入るまで浪人四年、そして自分の画風を見つけれず大学で六年間もあつたという間に過ぎる。それでもなかなか本質は見つけられない。

大学院の修了制作『聲(こえ)』を觀に小原先生がわざわざ福島から展覧会に駆けつけてくれた。「うーん、お前はこれでいいんです。」多分、絵を褒めたわけじゃない。僕の考え方のスタンスが広がったことを褒めてくれたのだ。涙が出るほど嬉し

かった。どんなに著名な教授から言われるよりも嬉しかった。僕の原点は福島東高校だ。誇りがある。福島東高の皆さん、OBのみなさん、東高に携わってくださった先生の皆様、福島東高を出発点にしてここ三十五年で画家齋正機(本名齋藤正機)がどのように変化していったのか?どんな絵になっていったのか?とうほう・みんなの文化センターに確かめに来て下さい。皆さんをお待ちしています。

【会期】

二〇一九年三月二十七日(水)
〜四月十四日(日) 会期中無休
(ギャラリートーク)
☆三月三十日(土)
タレント・俳優
なすびさん(東高二期)



▶『塩屋埼灯台ト共二』
二〇一九年東邦銀行カレンダー



▶『メロン味カイ・』
箱根・芦ノ湖成川美術館所蔵

☆三月三十一日(日)

オペラ歌手
樋口達哉さん(東高六期)

【場所】

とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター)
齋正機HP
<https://masaki-saijindo.com>

齋正機後援会HP
<https://masaki-sai-kouenkai-jindo.com>

※齋藤和也先生(元東高校長先生)が後援会会長です。

※小原先生は昨年五月末に長い闘病生活の末、お亡くなりになりました。小原先生ありがとうございました。そして合掌。

― 齋正機プロフィール ―

一九六六年福島市生まれ、本名・齋藤正機(福島東高校二期生)

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業、同大学院修了。

一九九八年ふるさとの風景展(喜多方市美術館)で最優秀賞受賞を皮切りに、数々の絵画展で受賞。二〇〇三年、洋画の登竜門である昭和会展(日動画廊主催)にて、日本画家として初めて最高賞の昭和会賞を受賞。以後、福島を風景を中心に鉄道、花、人物などを描く新日本画としての世界を広げている。二〇一一年から東邦銀行のカレンダーに絵画が採用され、今年で九年目となる。

転任者の言葉

文武両道 〜東高に着任して

国語科 廣瀬 慶一

「顔を上げて われら開かれた道を行く」

心に迫る歌詞だと思います。詩人長田弘が作った校歌を聞くたびに福島東高校という空間で共通の時間を生徒達とともに過ごしていることを痛感しています。東高が「文武両道」を高く掲げている学校だからなおさらこの歌詞に魅かれるのかも知れません。私が新採用教員であつ

平成30年度 転出者

Table with 4 columns: 職名, 氏名, 転出先. Lists staff departures including 吉田豊彦, 狩野剛, 荒義紀, etc.

平成30年度 転入者

Table with 5 columns: 職名, 氏名, 前勤務先, 教科. Lists staff arrivals including 吉田強栄, 廣瀬慶一, クームズ茂子, etc.

た頃は確か第七期生の時代でした。まさに新進気鋭という言葉がぴったりで、学業でも部活動でも地域の群を抜く存在だったイメージがあります。以来三十数年経った今でも学習と部活動を両立させるべく努力している生徒は多く、その頑張りや素晴らしいと思っ...

溢れます。グラウンドに、体育館に、武道場に、そして教室や廊下にまで躍動する生徒の姿がそこにあります。前号の同窓会会報を開き、「部活動を終えて」の項を眺めてみると、精一杯やり切った感想が示される一方、「これくらいいいや」と力を緩めた時間がどれだけ目標から自分を遠ざけたのか。という厳しい言葉も見られます。高い目標を掲げ、そこに向けて努力したからこそ言える言葉だと強く感じます。文武両道は生半可な覚悟では到底やり通せません。そこには強い意志が求められ、側に立つ我々教師にも家庭にも意志の疎通が求められると改めて強く感じます。

編集後記

校歌の一番から三番までの全てに「今日は明日の歴史」という言葉が見られます。日々の各教科から出させる課題をこなしながら、部活動に情熱を傾ける「東高らしさ」があって、初めて今日の頑張りが明日に繋がるものでしょう。高い目標を持って文武両道を目指す「東高らしさ」をさらに支えていきたいと考えています。

稿頂き厚く御礼申し上げます。
稿頂き厚く御礼申し上げます。
稿頂き厚く御礼申し上げます。
稿頂き厚く御礼申し上げます。
稿頂き厚く御礼申し上げます。

等学校を取り巻く環境は大きく変化の時期を迎えようとしています。それらは大学入試制度のセンター試験から共通テストへの変更、高校入試制度の変更、部活動のあり方など多方面にわたります。本校でも高大接続改革、学習指導要領改訂等に対応したカリキュラムマネジメントの一環として、三十一年度より現行の四十五分七校時から、五十分七校時に教育課程が変更されます。
このように時代は変わっても、「東高らしさ」を失わず、学校の本質は変わらず「文武両道」であってほしいと願います。そのためには、決められた時間の中で「文」と「武」の時間を上手に切り替え、充実した学校生活を送ることが今まで以上に求められますが、東高生ならばできると私は信じています。そして新元号の時代でも東高の「新しい伝統」を築いていってほしいと思います。
最後になりましたが、同窓生の皆様方におかれましては、今後とも本校の教育活動にご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

(十二期生 菅野 真幸)